

第3章 地域振興分科会による地域連携委員会の実施

3-1 地域連携委員会のイメージ（東京都の取り組みを例に）

今年度も引き続き実施している地域連携委員会は、東京都専修学校各種学校協会が平成30年度より推進してきた『専修学校振興構想懇談会』内にある「高等専修学校検討部会」（以下の参考資料内の赤枠③の部会）モデルにしており、全国各地域の高等専修学校でも同様な取り組みが展開できるよう、ノウハウの蓄積を目指している。

参考資料

平成30年度下期 専修学校振興構想懇談会の設置の概要

平成30年11月28日資料
東京都専修学校各種学校協会

事業の概要

①専修学校構想懇談会設置の目的
専門職大学等の制度化など職業教育体系の大きな転換期を迎える中、平成15年に設置し、提言を行った専修学校構想懇談会の総括を行うとともに、現在の専修学校をとりまく環境を再確認し、専修学校教育の質の保証、社会人の学び直し、留学生教育等に的確に対応するため、専修学校における職業教育のあり方について調査研究を進め、具体的な施策を関係機関等に積極的に提言する。

②振興懇談会の運営方法
専修学校にかかわる全体像について、現状の分析・課題等を検討し、骨格となる議論を行う構想懇談会を設置する。構想懇談会のもとに、より詳細な議論を深めるため、作業部会を設置する。作業部会は専門学校作業部会、高等専修学校作業部会を設置し、それぞれの課題、提言をまとめる。

③研修会セミナーの開催
これら研究のプロセス、研究成果などについて、研修会、セミナー等を適宜開催し、専修学校及び関係者の共通認識の醸成と情報の共有を図る。

専修学校振興懇談会 取組と目標

（取組計画）

各検討部会による審議
・課題の整理
・観点、方向性の整理・確認
・テーマの設定
・先の懇談会の総括
学校視察
懇談会によるまとめ

年度のまとめ
・各検討部会のまとめ
・振興懇談会としてのまとめ
・次年度の計画

調査の実施
・専修学校団体
・所轄庁
・職能団体等
・業界団体等
ヒアリングの実施
調査結果のまとめ

提言内容の整理・案案づくり
・提言書の構成
・提言先の検討

年度のまとめ
・各検討部会のまとめ
・振興懇談会としてのまとめ
・次年度の計画

まとめ
・各検討部会のまとめ
・振興懇談会としてのまとめ
・提言の発信の検討

各検討部会による課題研究
と方向性の打ち出し

検討の方向性と現状の諸課題と
の整合性確認・調査の実施・提
言案の作成

提言内容の発信

（30年度達成成果）

- 各検討部会による課題整理
- 検討の方向性の決定
- 先の懇談会の総括
- 年度の検討のまとめ
- 報告会の開催

（31年度達成成果）

- 実態調査の実施
- アンケート調査
- ヒアリング調査
- 調査結果のまとめ
- 提言の案案
- シンポジウム開催

（32年度達成目標）

- 案案の検討
- 関係機関との調整
- 提言の発信
- シンポジウム開催

ゴール目標 7月

事業の推進体制

事業総括：振興対策部

①専修学校構想懇談会

②専門学校
検討部会

③高等専修学校
検討部会

各検討部会の下級に、必要に応じて小委員会を設置する

各会議の役割と構成

①構想懇談会（懇談会総括）
・旧構想懇談会の総括（懇談会の成果と残された課題等）
・専修学校の現状での諸課題と今後の全体像
・各検討部会の役割分担と成果の統合
懇談会メンバー
専修学校関係者、行政関係者（文科、都）、職業教育有識者（大学教授等研究者）ほか

②専門学校検討部会（年2回～3回）
・旧構想懇談会報告書の研究（専門学校の新たな課題と方向性等）
・専門学校が発信する職業教育に関する提言等
・各検討部会の成果報告書のまとめと総括の作成 他

（日本語教育および留学生対策）
・留学生の受け入れ、教育の充実、卒業後の一定の就労保証
・留学生の適正な受け入れ、生活指導等管理の徹底
・教育内容および就職指導の充実
・日本語教育環境との連携

構成メンバー
専門学校関係者、日本語学校関係者、行政関係者（文科、厚労省、都）、高校関係者、職業教育有識者（大学教授等研究者）

③高等専修学校検討部会
・高校ではない高等専修学校の役割（調査、背景分析）等
・専修学校との格差についての調査と研究
・高等専修学校助成策のあり方
・検討部会としての成果報告書の作成 他
構成メンバー
高等専修学校関係者、行政関係者（文科、都（私学部・教育庁）
中学校関係者、有識者（大学教授等研究者）

平成30年度スケジュール

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
		振興対策部 懇談会準備作業					振興構想懇談会
				検討部会1	検討部会2	検討部会3 中間報告のまとめ	
30年度においては2つの検討部会がそれぞれ2回程度の検討部会を実施する							
必要に応じて調査等を実施							
							中間報告発表会

今年度も全国12か所（北海道・福島・茨城・東京・神奈川・愛知・大阪・岡山・徳島・山口・佐賀・沖縄）において、本書7～8ページ記載の【学びのセーフティーネット機能の充実強化のために取り組むべき具体案（継続テーマ）】に準じた内容で、各地域で培ってきた地域連携の現状をまとめるために、地域振興分科会を中心に地域連携委員会の実施を計画。今年度は8地域（北海道・茨城県・神奈川県・愛知県・岡山県・徳島県・山口県・佐賀県）で本会が開催された。期間中1回～2回の委員会実施があり、地元での高等専修学校の認知度を調査したり、各学校の取り組みを広くPRしたりと、それぞれのテーマをもとに各地域で多くの地元委員から意見を聞くことができた。

本事業でのこれまでの成果を大いに発信し、今後他の地域でも「チーム高等専修学校」の構築が加速することが期待される。

以下、各地域の連携委員会での協議内容を報告する。

3-2 北海道（担当校：北見商科高等専修学校）

文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

高等専修学校の学びの「セーフティネット」

令和4年度 地域連携委員会（北海道）実施報告

開催校 学校法人栗原学園 北見商科高等専修学校

1 地域振興分科会について

1.1 委員会のテーマ

『高等専修学校の機能高度化に関する調査研究』

1.2 全体スケジュール

(1) 第1回地域分科会

令和4年11月21日（月） 15時30分～

ポールスター札幌3階 多目的ホールB

(2) 第2回地域分科会

令和4年11月30日（水） 14時00分～

北見商科高等専修学校 2階 図書室

1.3 地域振興分科会委員メンバー

木村 重成	北海道総務部教育・法人局学事課 課長
大畑 明美	北海道教育庁特別支援教育課 課長
横山 和博	北海道私立専修学校各種学校連合会 専務理事・事務局長
猪瀬 徹	苫小牧高等商業学校 校長
高橋 信一	苫小牧高等商業学校 顧問
佐藤 雄之介	苫小牧高等商業学校 教頭
竹次 康人	遠軽町立遠軽中学校 校長
小栗 敬一郎	遠軽町立南中学校 校長
柏尾 典秀	学校法人栗原学園 理事長
國井 秀彦	北見商科高等専修学校 校長
石黒 健嗣	北見商科高等専修学校 教頭

2 第1回 地域振興分科会 実施報告

2.1 実施概要

実施日時：令和4年11月21日（月） 15時30分～

実施場所：ポールスター札幌3階 多目的ホールB

2.2 参加委員

木村 重成	北海道総務部教育・法人局学事課 課長
大畑 明美	北海道教育庁特別支援教育課 課長
横山 和博	北海道私立専修学校各種学校連合会 専務理事・事務局長
猪瀬 徹	苫小牧高等商業学校 校長
高橋 信一	苫小牧高等商業学校 顧問
佐藤 雄之介	苫小牧高等商業学校 教頭
柏尾 典秀	学校法人栗原学園 理事長
石黒 健嗣	北見商科高等専修学校 教頭

2.3 【議題1】

苫小牧高等商業学校の現状について

2.4 【議題2】

北見商科高等専修学校の現状について

2.5 【その他】

アンケートの記入について（時間の都合上、アンケートの記入にご協力いただき、後日郵送にて回収を行っている）

委員との意見交換

木村 重成	(質問) 1. 苫小牧、北見それぞれ子どもたちの高校進学への選択肢がどれだけあったのか。また、選択肢があった中で専修学校を選んだ理由は。 2. 今通っている生徒が地域においてどういう選択肢があったのか。また、地域のない札幌とかであれば、どのような公立の学校へ通っているのか。商業をメイン、切り口としている理由なぜなのか。 3. 教員の確保（手間がかかる生徒が多い）。 4. 困っていることはないか。 全日制の高校もしくは専門学校と比べるとどうなのか。
佐藤 雄之介	(質問1への回答) 苫小牧は定時制高校との競合で商業及び工業・普通科との競合はない。
高橋 信一	(質問3への回答) 学校に係る運営費については自前で行っている。

<p>猪瀬 徹</p>	<p>道からの補助金もあるが、人件費から削っていかなければならない。</p> <p>(質問1への回答) 苫小牧の高校の序列 東→南→西→工業→総合経済と考えられる。</p> <p>(質問3への回答) 校長や顧問の人脈を使い北海商科大学等の協力を得て先生の確保をおこなっている。</p> <p>(質問4への回答) 経営としての人材の確保、人件費のウエイトへの補助をお願いしたい。 先生方も生徒も人であり褒めて育てる。</p>
<p>石黒 健嗣</p>	<p>(質問1への回答) 北見は北斗→柏陽→緑陵と市内には普通高校が3校ある。 商業、工業、北斗定時また、訓子府、置戸、留辺蘂、津別、美幌など地方の学校もある。 北見の商専に通う理由は、小学、中学と同じ学校で生活してきた同じ顔の生徒とは別の学校に通いたい。</p> <p>(質問2への回答) 網走の支援学校は男子校で女子生徒の受け皿がない。 商業高校も商専も女の子の比率が高い学校となっている。</p> <p>(質問3への回答) 手間のかかる生徒が多いのが現状。少ない教員で対応している。</p> <p>(質問4への回答) 教員の確保についてはなかなか手がなく難しい状況である。</p>
<p>柏尾 典秀</p>	<p>(補足) 札幌にある高等専修の情報を調べてみたい。 北見については、公立(北見商業)に受かったけど商専に行く。 過去の商専のイメージもまだ残っていて商専にはいかせたくないという保護者もいる。 年に1件程度ではあるが、北見商業より商専へ転学するというケースもある。教員の確保は非常に頭を悩ませる問題。 自分たちで育てることを視野に入れ採用を考える。 困っていることは金額面の支援について、各地域で困っている子どもたちの約8割が卒業して就職し社会に貢献している。 道としては高等専修に投資することは正しいことではないだろうか、支援学校をつくるよりも低コストである。 支援学校と普通教育の学校の間がないのが現状であり、高等専修はその中間を担う学校であるので支援をお願いしたい。</p>

木村 重成	<p>専門学校、専修学校高等課程についてこのような話を聞いて必要性を認識した。</p> <p>管理運営費、単価は徐々に上げていきたいと思っている。</p> <p>人件費について単価が高いわけではなく人数がかかることについて説明をしていきたい。</p>
高橋 信一	<p>(大畑委員への質問)</p> <p>資料にあった発達障害、不登校の生徒は大体一致している。</p> <p>インクルーシブ教育を推進していくなかで、国際的な流れ中で求められている子どもたちの権利を、私たちの学校でも実現していきたいとおもっている。そのためには、取り組みの中で足りていない部分を補うためにも高等専修学校に対しても情報の提供は可能であるのか。</p>
大畑 明美	<p>(回答)</p> <p>両校の取り組みに対して特別支援学校では十分に提供できていないことを提供できている学校であることを改めて認識した。</p> <p>通常の高等学校か特別支援学校かの選択肢に対して困り感を持っている保護者がいるとき、進度の遅い支援学校での教育はどうだろうかという進路相談をしているが。</p> <p>どのようなお子さんが来られても対応できるようにはしているが、不登校気味の子や軽い発達障害の子たちが来られた時の教育活動や現場実習についてが難しい。</p> <p>両校のような資格試験等の就職の選択肢につながるような資格取得や教育活動につながっているかという点で非常に難しい。</p> <p>親亡き後も自立した教育を展開していくためには手に職をつけた教育活動を展開していける学校があることに対してありがたいことである。</p> <p>道教委は各教育局を通じて市町村にあるいは支援学校には周知はするが、もっと幅広く学事課さんを通じて参考までに資料を提供することはできる。</p> <p>それぞれの支援学校がセンター的機能を発揮し共有して気軽に活用できるような体制にしていく必要がある。</p>
横山 和博	<p>(全体を通しての回答)</p> <p>中学校から公立高校に入学し能力的な問題ではなく、中退していった子どもたちのその動向を進路指導協議会で聞いても追跡調査は出来ていないのが現状である。</p> <p>そのような子どもたちの受け皿をどうするのか。</p> <p>このようなことから専修学校の社会的な役割は大きいのではないだろうか。</p>

アンケートの集計

1 高等専修学校が行っている取り組みについて

木村 重成	<p>配慮が必要な生徒が多い一方で限られた教員数で対応せざるを得ない状況であることを認識。</p>
-------	---

<p>大畑 明美</p>	<p>通常よりも教員数が必要であるが確保が難しい状況であることが課題。</p> <p>「自立・社会参加を重視している」「就職に強い」学校であることを改めてアピールできるよう、習得させる技術や資格の幅を広げること。</p> <p>ただし、現在の「自己肯定感を高めること」を主眼とする教育から大きくそれる必要はないと考える。</p>
<p>横山 和博</p>	<p>2015年の国連サミットでSDGsが採択された2016年から2030年までの15年間で達成すべき17の目標を掲げたそのうちの一つが教育。「質の高い教育をみんなに」誰も取り残されない教育の場をつくることだと考える。2校の取り組みは、まさにこの目標に向かった取り組みだと感じた。</p>
<p>猪瀬 徹</p>	<p>北見商科高等専修学校は、習熟度別少人数制授業を展開する中で3年間を通して、基礎学力の向上が図られ成果をあげている。また、商業科の学校として、社会に出てから必要とする資格を多数取得している。これら多くの取り組みにより卒業生の進路実績に繋がっている。</p> <p>苫小牧高等商業学校は、ビジネス教育（専門教育）のなかで、実技・実習型の学習を通して資格取得に成果をあげてる。また、人間性の育成を目指し、介護福祉学習を取り入れることにより、生徒の心の教育に繋がっている。進路状況はこれらの取り組みにより、地元、苫小牧市を中心に就職し、実績をあげている。</p> <p>このことから、両行ともに、地域に根ざした高等専修学校として、必要な学校であると考えている。</p>
<p>高橋 信一</p>	<p>全専各連ならびに北専各連の全面的な支援をいただき、全国の高等専修学校が連携をして地域社会にその存在の必要性を訴えかける取り組みは大変意義のある活動だと考える。</p> <p>「高等専修学校に対する地方財政措置の実現」に向け運動を推進して参りたいと考える。</p>
<p>佐藤 雄之介</p>	<p>道内の他の高等専修学校の取り組みも知りたいと興味が出てきた。商専と苫高商の取り組みや成果に共通する点も多く、自分たちがやってきたことが他でも実践されていて裏付けができたようで勇気が湧いた。</p> <p>2校以外の他の学校も同じなのか、異なっているのか。他県はどうなのか。地域に根ざしたセーフティーネットとしての役割を全国の高等専修学校はどんな形で担い、成果を挙げているのか。</p>

2 高等専修学校が各地域において、教育的配慮を必要とする生徒を受け入れていることについて

<p>木村 重成</p>	<p>それぞれの地域の学校の中から、高等専修学校が選択されていて、高等専修学校は、特別支援学校と普通教育学校の間隔的な役割を担っており、その必要性を認識。</p>
--------------	---

大畑 明美	<p>教育的配慮を必要とする生徒については、発達障がいの程度や、本人の特性、保護者の意向等により、一人一人に応じた進学先を選択できることが望ましいと考える。</p> <p>そのような中で、高等専修学校が職業教育を通じて生徒に自己肯定感とやりぬく力を身に付けさせ、確実に就労に結びつけておられることを大変ありがたく思っている。</p> <p>また、こうした教育活動を通じて、両校は小中学校を含めた地域全体から不可欠な存在となっているものと認識している。</p>
横山 和博	<p>現在、道内の高等専修学校の数が少ない状況にある。この素晴らしい教育が全道に広がることを強く望む。</p>
猪瀬 徹	<p>北海道の各地域の高等専修学校においても、教育的（特別な）配慮を必要とする生徒を多く受け入れている。具体的には発達障がい（ASD,ADHD,LD,DCD）のある生徒や多様な要因で不登校に陥った生徒などを多数受け入れている。</p> <p>教育的配慮を必要とする生徒を受け入れるためには、施設・設備的な環境整備や人材の確保、そして教育側の研修が必要。これまで地域の生徒・保護者の願いを叶えるために、各地域の高等専修学校としての特色ある教育の実践や特徴ある教育課程の改善を推進するとともに、学校法人・教職員が一丸となって懸命に努力し、頑張ることが重要であると考えます。</p>
高橋 信一	<p>不登校、学力不振、発達障害等の相談が保護者から多く、中学卒業後の進路への悩みや戸惑い、不安を抱えている。私立高校や公立高校ではこのことについて正面から具体的な支援策や対策を示す学校は多くはなく、高校進学では行き場のない現実に突き当たる中学生や保護者が多い。</p> <p>中学生や保護者からの要望を丁寧に聞きながら、他の私立、公立高校との差別化を図るなかで生徒募集を行っている。</p>
佐藤 雄之介	<p>「教育的配慮を必要とする生徒を受け入れる」という言葉に違和感を感じる。どの生徒に対しても必要なことであり、すべての学校がおこなわなければならないこと。しかし、配慮が及ばない（及びにくい）生徒も存在するのも現実であり、高等専修学校はそのような生徒を受け入れ成果を挙げていると考える。</p>

3 高等専修学校として、今後新たにこういった取り組みが望ましいとお考えでしょうか。
ご意見をお聞かせください

木村 重成	<p>道として、特別支援や不登校に係るマニュアルや研修等の様々な資料など、各学校への情報提供に取り組んで参る。</p>
大畑 明美	<p>「自立・社会参加を重視している」「就職に強い」学校であることを改めて</p>

<p>横山 和博</p>	<p>アピールできるよう、修得させる技術や資格の幅を広げること。 ただし、現在の「自己肯定感を高めること」を主眼とする教育から大きくそれる必要はないと考える。</p> <p>1校1校の取り組みには限界があると思う。 今後、教育行政、中学校、各種団体などと理解と連携を深めることによって、子どもたちにとって必要な教育環境が整っていくと思う。</p>
<p>猪瀬 徹</p>	<p>これまでの教育実践を継承・継続し、発展していくこと。そのためには、学校と地域社会とが子どもたちのことをこれまで以上に共通理解を図り、たがいに教育力を高め、双方向からの情報発信や学社融合の理念を踏まえた教育活動を展開することにより創造され则认为る。</p> <p>具体例</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 基礎基本の定着を徹底し、個に応じた習熟度別等少人数指導、発展及び補完的学習指導の充実を図る ② 豊かな心や感性を育てる体験活動、奉仕活動を総合的な探究の時間を中心に各教科にも位置づけ充実を図る ③ 地域と関わる授業を展開するため、地域で活躍する専門家やボランティアなどの地域人材を積極的かつ有効に活用する <p>この3点は、OJTに基づいて教師の授業力を高め、質の高い授業を展開することにより確立され则认为る。</p>
<p>高橋 信一</p>	<p>北見商専、苫高商ともに見えてくる共通の課題は人材の確保と学校運営費である。</p> <p>高等学校と高等専修学校とは相互に差別化を図りながら良好な競争をしていく関係にあることが望ましいと考えますが、国からの「経常費補助」については高等学校との最大の格差として存在していることも確かです。より良い教育環境を目指し高等専修学校の体力と競争力を高めるための課題解決の第一歩として、今取り組んでいる「高等専修学校に対する地方財政措置の実現」を図ることは重要な課題である则认为る。</p>
<p>佐藤 雄之介</p>	<p>学校運営費用面の問題が解決できれば教員を増やし、専門性を高め、生徒の苦慮に応じたきめ細やかな指導、基礎学力の定着を図りながら、能力に応じてより高度な内容を発展的に教え、進学実績をあげていくことをまず第一に考える。</p> <p>また、家庭環境に難を抱える生徒が少なくないことから、家庭とつながりを持つことが生徒の成長の妨げになっていると感じることも少なくありません。とても人手と費用を必要としますが、学生寮を設け生徒を親元から離れさせ、</p>

	寮生活を通じて規則正しい生活習慣や集団生活による協調性が身に付けられるようなことができると考えることもある。
--	--

4 全体を通して、ご意見・ご要望がございましたらお聞かせください

木村 重成	高等専修学校の各取組を継続する上で、学校の教育体制など困っていることや課題を洗い出すことが必要。今後も関係機関と情報共有していきたい
大畑 明美	今回、こうした（学校現場、団体、行政（公・私）が参加する）場に参加し、「道内全域の教育の受け皿」をイメージしながら情報共有することができた
横山 和博	本会議をきっかけとして、今後、継続的に行政、団体との情報交換、連携が図られる場を設定するとよいと考える
猪瀬 徹	<p>高等専修学校は、高等学校と特別支援学校との間を補完するための教育機関として重要な役割を担っていると確信している。そして、北海道の高等専修学校においても学校運営上に必要とされるものは、「人」・「もの」・「金」と言われており、次の全ての業務が重要であると考えている</p> <p>「人」とは、①生徒の管理 ②教職員の管理</p> <p>「もの」とは、③施設・設備の管理 ④諸表簿等の管理</p> <p>「金」とは、⑤学校運営上の資金調達運用 ⑥外部組織との連絡・調整等</p> <p>よく教育は人なりと言われているが、その人材を確保することが必要である。そのための資金調達が必要かつ重要で喫緊の課題であると考えている</p>
高橋 信一	<p>1) 各地方の専各や全専各連においては、大多数が専門課程の学校が主流であるため、高等専修学校は隅に追いやられていた印象がある。しかし、今回の取り組みをきっかけに改めて相互に問題点の共有ができ、大同団結することができるのではないかと感じる。来年の総会ではコロナ禍が収束することを前提に、全国の会員校から多くの会員が参加して高等専修学校の社会的認知の向上と、学びのセーフティーネットの確立を目指し開催することを希望する。その先には、特別交付税措置による国からの運営費補助の獲得が見えてくるものと考えている。</p> <p>2) 今年の9月に、国連の障害者権利委員会が日本に対して、障害児を分離した特別支援教育の中止を求める勧告をした。永岡文科大臣は即座に否定をしたが、国際的に主流となる「インクルーシブ教育」が日本の教育制度に大きな一石を投じることにもなると感じた。多くの高等専修学校は、入学者の学力差が大きく、特にこの中で学力が下位の生徒を中心に自閉症・情緒障害・知的障害・配慮等が必要と思われる生徒等が偏在しているのが現状である。「インクルーシブ的な教育」が現実におこなわれているのが高等専修学校であると考えている</p>

佐藤 雄之介	<p>そこで、これをプラスに考えこれまで実績のある高等専修学校が調査・研究をおこない、この実証試験によって近い将来、日本の教育制度に本当の意味での「インクルーシブ教育」が定着できることを期待する。高等専修学校から発信する同教育の成果やノウハウを全国の学校に届けることは、十分に可能であると考え</p> <p>本校のこれまでの取り組みを振り返り、過去の反省と今後の目標をあらためて考える機会となった</p> <p>過去にうまくいったことが現在の通用するとは限らず、常に新しいことに挑戦しながら全教職員が日々全力で生徒と向かい合っている。また、同じような取組も地域の全く異なる学校でも行われていることを知ることができて勇気づけられた。横のつながりも強化し、お互いに刺激を受け地域に貢献できる学校として発展していきたい</p>
--------	--

2.6 まとめ

今回の委員会は、高等専修学校の取り組みや現状を現場の教員が説明し内容を知ってもらうための良い機会となった。

高等専修学校に通う生徒の大半が特別な配慮が必要である。そこで寄り添った教育を継続して行うためには人員の確保が必要である。しかし、現状は教員のなり手不足や学校運営上の費用の問題もあり、現存の教員に負荷がかかっているのも現実である。

また、今回の委員会では高等専修学校の役割や困っていることを共有できたと考えている。今後も、高等専修学校が行政や団体等の協力のもと情報の共有化を図り地域社会に貢献できる学校運営を目指していきたい。

2.7 資料

- ① 2022 分科会送付資料（苫高商）.pdf （別途添付）
- ② 2022 分科会送付資料（北見商専）.pdf （別途添付）

3 第2回 地域振興分科会 実施報告

3.1 実施概要

実施日時：令和4年11月30日（水）

実施場所：北見商科高等専修学校 2階 図書室

3.2 参加委員

竹次 康人	遠軽町立遠軽中学校	校長
小栗 敬一郎	遠軽町立南中学校	校長
國井 秀彦	北見商科高等専修学校	校長
石黒 健嗣	北見商科高等専修学校	教頭

3.3 【議題1】

委員との意見交換

竹次 康人	<p>① 以前光西中学校に勤務しており、教員時代に勤務していたころの商専と今の商専とではイメージが全然違う。</p> <p>② 11年位前に相内中で教頭時に、不登校であった生徒が商専でお世話になっており、休むことなく登校し、生徒会長まで務めた生徒がいると報告を受け、喜びを感じていた。</p> <p>③ 配慮や支援が必要な生徒がたくさんいるなかで、そのような生徒を受け入れて頑張っている学校であるということが説明を含めて再認識することができた。また、北見・オホーツク管内において大変大事な教育をされていると思った。</p> <p>④ 特別支援学級に在籍しているが、高等養護ではなく進学して高校の資格を得るために勉強したいという子どもたちが増えてきているので、今後もお世話になることがあると思う。</p> <p>⑤ いろいろな悩みを抱えている生徒を受け入れてくれている学校であり、学び直しができる環境があることがありがたい。</p> <p>⑥ 経済的な支援の部分や下宿、高校進学までのサポート等を中学校の教員に話してもらえると、どの学校がその子にあっていくかという選択肢の一つとして進路指導をおこなうことができる。</p>
小栗 敬一郎	<p>① 光西中の教頭の時にも、たくさんの生徒がお世話になっていた。</p> <p>② 今年度、本校の生徒で商専を希望していた生徒がいたが、網走の日体大付属支援学校に行くことを決めた生徒がいる。理由としては、遠軽から北見へは通いにくいという理由から寮のある網走へ行くことに決定した。 遠方からの生徒が下宿先より登校する場合、どれぐらいの費用がかかるのか。また、どの程度まで支援をしてもらえるのかを知りたいと思った。</p> <p>③ 商専を希望していた生徒の保護者は、高校の卒業資格を取得するためには商専がいいと話をしてしたが、卒業するためには、技能連携をおこなっている有朋高等学校（公立高校）が難しいのではないかと判断で日体大付属支援学校を選択した。</p> <p>④ 学習面や費用面に対する宣伝をもう少し細かくおこなってもらえると、子どもたちの高校進学への夢が膨らむのではないかと思う。</p>
國井 秀彦	<p>① 支援に関して、最大遠い生徒で釧路の支援学校を卒業して、商専に入学した生徒がいる。卒業後は情報ビジネス専門学校へ進学し学びたいという希望をもって入学してきている。下宿等の紹介をしており、本人、保護者を連れて第3候補ぐらいまで見学し、大家さんと話し合い、納得のうえで下宿先を選択し登校している。</p> <p>② 栗原学園には協力会という組織があり、その中に下宿等をおこなって</p>

	<p>る企業があるので紹介することができる。</p> <p>③ 高等学校の卒業資格を得るための学習への取り組みとしては、本校教員がしっかりとサポートして取り組んでいるので、単位不認定になる心配はない。</p> <p>④ どの生徒にも高等学校卒業資格はぜひ取得してもらいたい資格である。それを学びとる、掴みとる機会はその子にも均等に与えたい。ただし、残念ながら年度途中で卒業まで待たずして断念してしまう生徒もいる。その原因の一つとして保護者の協力が得られない場合が多い。</p>
--	--

3.4 まとめ

本校が地域においてセーフティネット的役割を担っているという認識や理解を得ることはできているが、公共の交通機関が少ないオホーツク管内の不便性により通学をためらう家庭が多い。また、下宿やアパートによるひとり暮らしを選択した場合、費用面等のサポート体制についての情報等が少ないため、その部分の強化に努める必要がある。

3.5 資料

- ・ 2022 分科会送付資料（北見商専）.pdf （別途添付）

3-3 茨城県（担当校：細谷高等専修学校）

文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
 高等専修学校の学びの「セーフティネット」
 令和4年度 地域連携委員会（茨城県）実施報告

開催校 学校法人細谷学園 細谷高等専修学校

2 地域振興分科会について

1.1 事業の趣旨・目的等について

高等専修学校の社会的認知の向上と真の高等専修学校の学びのセーフティネットの確立を目指したい。

1.2 具体的な取組

（真の学びのセーフティネット機能の充実強化のために翌年度以降検討していく具体案）

事業を通じて、高等専修学校の社会的認知度を一層高め、それぞれの地域でのさまざまな組織との連携を深める一方、「チーム高等専修学校」として、各地・各校での活動を情報開示、共有し、課題抽出を的確に行うことにより、具体的な改善諸施策を検討することを目標の一つとする。地域振興分科会（茨城）では、以下4つの内容に着目し、その中から実際に進めていく研究内容を検討していく。

1.3 委員会スケジュール

第1回 地域振興分科会

開催日時：2023年1月20日（金）14：00～16：00

開催場所：細谷高等専修学校 新ホール

1.4 地域振興分科会委員メンバー

益子 寿浩	筑西公共職業安定所 所長
松本 和能	筑西市教育委員会 指導課 副参事
櫻井 千洋	筑西市立下館中学校 校長
萩野谷 匡	筑西市立明野中学校 校長
上野 怜	学校法人細谷学園 理事
村上 義孝	株式会社つくばエデュース 代表
細谷 貢	細谷高等専修学校 校長
細谷 恭子	細谷高等専修学校 教頭
細谷 祥之	細谷高等専修学校 事務長

2 第1回 地域振興分科会 実施報告

2.1 事業概要説明

地域振興分科会（茨城）では、高等専修学校の社会的認知度を含め現状の確認及び課題の抽出を中心に検討を進めました。今回委員の方に実施しました高等専修学校の認知度に係るアンケート調査結果では、高等専修学校の認知度についてある程度内容も知られてきたのではと思われます。今回のアンケート結果及び地域振興分科会での検討事項を基に、令和4年度及び令和5年度は、以下の内容を意識して研究を進めていく予定です。

ご芳名		※該当箇所には○印をつけてください			
細谷高等専修学校の認知度について （「高等専修学校」の認知度について）		よ 知 っ て い る	な 知 ん つ と て な い く	ほ 知 ぼ ら な い	ま 知 っ ら た く な い
入学について					
①	男子生徒の入学（男女共学）について	3	2		
②	不登校経験者の入学について	3	2		
③	多様な個性（軽度発達障害等）のある生徒の入学について	2	3		
カリキュラムについて					
④	県立高校（水戸南高校）の卒業について（細谷高等専修学校のBコース）	3	2		
⑤	専攻科目（美容、服飾、介護、保育、クリエイター、パフォーマー）について	1	4		
卒業後の進路について					
⑥	進学の場合、高卒と同等（大学入学資格附与）	3	2		
⑦	就職の場合、高卒と同等	3	2		

こちらの事業は3年間の事業で昨年度から始まりましたので今年度が2年目となります。来年度3年

目を実施して完了となります。今年度は会議を1～2回できたらと思っていたのですが全員で集まれる日がなかなか難しくご案内も急だった関係で本日のみ1回の開催となりました。本日は、本事業で実施していく内容についてある程度具体的に方向性を決めていただき来年度（年末年始）あたりの会議を行うころには何らかの形で一区切りつくように進めていけたらと考えております。

本日の協議事項ですがいくつかの資料にまとめさせていただいております。まず資料①がホチキスで5・6枚綴じてある資料で、こちらは昨年度文科省に提出しました事業計画書の抜粋になります。事業計画書で、このようなことをやっていきますという内容が5の（2）に書かれている部分で、具体的な取り組みということところで2枚目と3枚目に①～⑩まで書かれています。①～⑩の取り組みを自分の地域に合うようにどのように取り組んでいけば良いのかという事について、細谷高等専修学校ではどのような内容が効果的かを考えながら進めていけたらと思います。10個全部実施するという事ではなく、あと1年で一区切りですのでこれらの中で実施出来そうなもの1～2個をピックアップして具体的にどのように進めていけば良いのかをアドバイスいただき、最終的には具体的な取り組み内容を決定できればと考えております。

資料②に記載されております「検討内容1」の青字で書いてある部分については、資料①「事業計画書」の関係部分抜粋になります。事業計画書内①～⑩のうち、①、⑤、⑥、⑩について検討内容を記載させていただきました。

2.2 地域振興分科会（茨城）で取り組んでいく内容について

2.2.1 検討内容Ⅰについて（委員意見交換）

【検討内容Ⅰ】

事業計画書5（2）①高等専修学校卒業予定者の求人確保。（ハローワークとの連携強化）

- ・継続的な求人の確保につながる取り組み、事例収集。
- ・業界側が主体となって作成した、求人につながる企業実習（インターンシップ・デュアルシステム）のノウハウの研究。
- ・業界への認知度向上のための取り組み事例調査。

地域振興分科会（茨城）での検討内容

現在、生徒が非常に広範囲から通ってきている関係で、希望する就職先の地域や職種も非常に多岐にわたっている。その為、学校の所在地を中心に企業開拓を進めても、翌年度の卒業生については自宅の地域や希望職種が大きく変わってしまうため、実質的には効果が出にくい状況が続いている。それらを考慮し、現在はその年の生徒が自宅から通える地域とその生徒が希望する職種を基に毎年求人をひとつずつ探していき、就職活動を進めているが、現在のこのような方策については効率的でない部分もある。それらについての改善策、今後の方向性等について、研究していく。

また、例えば介護関係の就職希望者については、事前に職場見学または職場体験を行い、納得したうえで応募するケースが多い。休日のみでそれに対応していく場合、時間的な負担も大きいため、インターンシップ、デュアルシステム等を意識した企業実習について、研究を進める。

事業計画書の①は高等専修学校卒業予定者の求人確保になりまして具体例が計画書に載っているのですがそれを元に茨城（本校）で取り組めると良いのではと思う1つの案として書かせていただいた内容が赤字で書かれている「地域振興分科会（茨城）での検討内容」となります。

求人確保については本校でもどのように進めていくべきか悩んでいる事項がいくつかあります。書かせていただいたのは毎年とても広い地域から生徒が通ってきている関係で、生徒が希望する仕事について、その地域・職種で募集している企業を探して個別に問い合わせをしながら進めております。

その地域で生徒が希望している職種の求人を出して下さっている企業を見つけても次の年にはその地域の生徒がいないことも多く、その都度対応しているのが現状ですので効率が悪い状況かと思えます。生徒数が少しずつ多くなってからは毎年その地域からその職種を希望する生徒が出てくるようになってきましたので、今後は少しずつ企業との繋がりを持ち進めていくというのも一つかと考えております。また、数は少ないですが、通常の就職が難しく障害者枠を希望している生徒もおります。今年の3年生だと3名おりました、進路が決まる時期が遅くなるので良い方法があればと思い、これらの課題について4つのテーマの1つとしてピックアップさせていただきました。

なかなか企業とつながっていくのは時間がかかりますが、ハローワークさんではそのあたりについて何かアドバイスありますか。

【益子委員】

昨年度も資料をいただいてそちらにも書かれていたかと思いますが毎年就職される地域がバラバラだということで一般の高校だと指定校枠というのがあります。校内で推薦いただいて毎年同じ地域のものを受けるのは難しいと思うので、ハローワークと連携していただいてオンラインで求人票を見ることはできるのでそこから自分の地域をみていただく、または地域のハローワークに行ってください進めていくしかないかと思えます。また障害者枠の生徒さんがいるということですがハローワークでも登録していただいている人もたくさんおりますし、いろいろな相談を受けますが、年に1度の就職面接会があるのでそちらを活用していただくのも良いかと思えます。企業には雇用率というのがあり、規模に応じて一定の障害者を受け入れる義務があります。2025年度から増える予定で、達成しない企業さんについてはハローワークからお願いするようになります。障害者職業センターや生活支援センターなどと連携を取りながら就職後も定着できるようにチーム支援でやっていくので色々と支援できると思えます。

ただ、個別の企業の確保は難しいと思えます。来月こちらの学校で予定している企業説明会はだいたいどの学校でもやっていますが、企業概要や仕事内容はそれにより分かります。ハローワークでやっているのは結城市と筑西市で高校生を対象に企業見学会を行っていて、職業の知識を高めるためにも必要だと思えます。ある程度職業を選択できるような知識を持たせることが大切だと思えます。幸いなことに今のところ求人数は多く、高校生にとっての求人倍率は良いです。少子化もあり毎年コンスタントに新入社員を取っていきたい企業さんも多いので、今出ている求人から選択できないということはないです。ハローワークと連携をとって探していくのでそれなりの選択はできるのではないかと思います。

（事務長）

最終的には希望している内容の企業に入社するようになっているのですが、就職担当職員が苦勞しているのは、早い段階で決まると安心なのですがギリギリになってくると急いで決めなければならないと焦りが出てくるところです。画面に映しているのは現時点での3年生の進路進捗なのですが2クラスあり決まっている生徒とまだ決まっていない生徒がおります。その中で3名の生徒が先ほど言った障害者枠での希望の生徒です。どうしても障害者枠で探している生徒の進路が毎年決まるのが遅くなってしまっている現状があり、もう少し早く決まると良いのかと課題になっています。障害者枠はやはり遅めになってしまうのでしょうか。

【益子委員】

特別支援学校などは実習を行っていて、そのまま実習先に就職するというケースも多いです。一般の新卒は9月16日選考開始なのですが選考開始と同時に面接を開始してしまいがちですが、実習を行ってそれから採用という形ですと2月くらいになってしまうこともあるので遅れる傾向はあります。ただ身体障害者の採用は早く決まります。

【齋藤書記】

一般求人で進めるか障害者枠で進めるかという決断が、ご家族と本人とそれぞれ遅いということがあります。一般求人で一旦見てから障害者枠に変更するということで遅くなってしまっているというケースも多いです。あとは、2週間くらいの実習が入るので面接に進むまでの時間もかかります。

【益子委員】

障害者手帳を取るまでも時間がかかることがある。障害者枠は賃金や条件面（正社員ではなく契約社員）を考えて障害者枠での応募になかなか踏みきれないというの也有ります。

（事務長）

その他ですと、何社か受けてダメということではなくて、どのようなところを受けたら良いのか保護者も含めまったく話が進まない生徒が1名おります。そのような意味で毎年1～2名は行きたいところがギリギリまで決まらない生徒がおります。また、本人が行きたいと言っても保護者の方がダメと言い決定が長引いてしまっているケースもあります。どのような会社が良いか決まらない生徒については2月に予定している2年生での企業説明会等も大変参考になるかと思ひます。

【益子委員】

一般の高校でも最後まで決まらずにアルバイトになっている子もいます。なかなか100%は難しいと思ひます。

（事務長）

求人確保について、今年担当職員が生徒と一緒に何度か企業に見学に行ったのですが、範囲が広くても1社ずつでも企業訪問をしながら個別に求人をもらえるように進めていった方が良いかと考えているのですがそのあたりについては如何でしょうか。求人をもらえるように在校生が多そうな地域から進めていくのも良いかと考えておりますが、企業訪問はあまり力を入れなくても良いのでしょうか。

【益子委員】

実際に企業を見るに越したことはないですし、ネットで見るより良いとは思ひます。

【上野委員】

もうすでに実施しているかもしれませんが、近隣だけでなく広範囲から生徒が通ってきています。栃木県からも通ってきていますよね。そのような中で、3点あると思ひます。

1つ目は筑西市のハローワークだけでなく、生徒の居住地のハローワークとの連携という点で、それぞれのハローワークと情報交換をする。

2つ目はなんといっても足で稼ぐということが大切。卒業生の就職先へ行って在校生の就職についてアドバイスとなる情報をいただいたりする等、企業（卒業生の就職先）に足を運ぶことが大切です。卒業生が在校生に就職のガイダンスをしていくという企画も良いと思ひます。卒業生が頑張っている話を聞いて私も行ってみようということもあります。

3つ目はその土台はなんだろうとなると一人一人の個性や知識をPRしていく必要があると思ひます。学校ですでにやられているかどうかわかりませんが、企業を訪問して在校生の個性や良いところなどを発信していくことが大切です。

（事務長）

企業さんは地域や職種などのあたりから繋がりを持てるよう進めていけば良いか分かわからない部分もありますが、卒業生が就職していて在校生も就職するというように、複数年にわたり繋がりのある企業も各地域いくつかありますのでそのようなところから訪問を始めて3年生の状況などを伝えていくのも良いかと思ひます。また、卒業生に仕事が休みの時に学校に来てもらって実際の話を聞かせてもらえると生徒目線でリアルなイメージが湧くかもしれないので早速来年から企画してみるのも良いかと思ひます。検討内容1につきましては、求人確保する為にどのように動いたら良いのか、1年間で何か形に出来たらと考えております。

2.2.2 【検討内容Ⅱ】について（委員意見交換）

【検討内容Ⅱ】

事業計画書5（2）⑤高等専修学校の自由度を生かした教育の質保証。（社会の人材ニーズ、学習ニーズに対応）

・社会的認知度向上を目標に、先進的な取り組みに関する事例動画の作成や Web での配信 等、魅力発信の方法検討。

地域振興分科会（茨城）での検討内容

高等専修学校を紹介できる動画を制作し、それを周知するための WEB での配信方策、DVD 等による配布等について検討する。

次に、検討内容Ⅱは事業計画書の⑤に書かれている内容ですが、高等専修学校の自由度を生かした教育の質保証ということで事例動画の作成や Web での配信となっております。昨年話をさせていただきましたが、高等専修学校自体が、名前は知っているが中身について知らない方が多い学校種かと思えます。特に茨城県は高等専修学校が少ないので実際の内容については知らない方が多いという実情があります。例えばですが、高等専修学校はこんな感じですよというような学校紹介のような内容になってしまうかもしれませんが、動画などを作ってホームページで見られるようにする、中学校に DVD を配布する等すると高等専修学校の認知度が多少上がってきて、中学 3 年生の時にこのような学校があるという事実を知らないまま終わってしまうのではなく、知ったうえで受験するかどうか選択できる段階まで進んでいくのではないかと考えています。

高等専修学校を知ってもらう為に色々と方策はあるかと思いますが、どのようにしたら良いか何か案はございますか。例えば前年度出していただいたご意見ですが、ホームページを見るのも大変なのでまずは中学校の先生に DVD を 1 枚お渡しすると見てくださるかも、というアドバイスをいただきました。因みに、中学校の先生で、細谷高等専修学校の名前は知っているとか中身を多少知っているとか感覚的に何割くらいでしょうか。

【櫻井委員】

下館地区の子たちは知っているかと思えます。DVD やホームページも良いとは思いますが生徒たちに見せる機会がなかなか無いです。それでしたら高等専修学校とはこのようなものだ、ここに進学すればこのような内容です、というポスターみたいなものをいただけた方がありがたいです。

本校からは昨年度 1 名、今年度は 2 名の生徒が入学します。今、生徒たちの進路は多種多様になっていて全員が県立高校という形ではなく通信制の学校を選ぶ生徒も増えています。S 高校や N 高校のような、冬はスノーボードをやりたいから通信制の高校で勉強して冬はスノーボードをやる、というように生徒たちの意識は私たちの頃とは大分違ってきています。私たちの頃は点数で高校を選んでいましたが、今は点数が高い生徒が部活をやりたいと言って学力の部分でレベルが違う学校に進学するとか本当に多種多様なので今年入る 2 名の生徒も自分で選んで細谷さんを受検しました。DVD をいただいても生徒に見せる時間がなかなか取れないので、高等専修学校の内容をポスターでいただいた方が学校としてはありがたいのかと思えます。

（事務長）

学校説明会の日にちのポスターみたいなものはお配りしているのですが、そちらが中心になってしまっているなのでそのあたりを工夫してプラス 1 枚を作成し、高等専修学校のポスターみたいなものを作れると掲示してくださる学校が増えてくるかもしれないですね。

【萩野谷委員】

職員についてどれくらい高等専修学校の認知度があるかということですが例えば筑西市出身ですとか筑西市在住職員はある程度認知度はあるとは思いますが、しかし筑西市以外の職員となると、自分の担任する生徒が細谷さんに進んだとかそのような経験がないと、なかなかどのような教育課程で進めているか分からないと思います。

(事務長)

まわりに、どなたか一人でも本校に生徒さんに向けてくださった先生がいると広まりやすいのかなと感じます。今年の入学願書を届けに来てくださった先生がおっしゃられていて、それまで名前しか知らなかったが同じ学校の先生が「筑西市にすばらしい学校がある」と教えてくれたということで今回の入学願書を持ってきてくれた先生がいらっしゃったので、時間をかけて面倒をみてきた実際の内容が広まっていると感じてすごく嬉しかったです。

【櫻井委員】

あとは在校生のネットワークを使って生徒から後輩たちに伝わっていくのではと思います。

(事務長)

在校生経由という点については、数年前から特に増えているなと感じています。兄弟で受験という方は以前から多かったのですが同じ出身中学校の生徒が在校生から話を聞いて増えていったような感じはします。今年も面接で色々話を聞いていくと、中学校の先生から本校の話聞いて受験したという方が多いのはもちろんなのですが、先輩から話を聞いてという生徒も何人かいました。

【萩野谷委員】

人伝ということを見ると例えば教え子が何年かして高校でこんな生活をしてこんな勉強をして充実していますというような報告を聞くと、元担任としても細谷さんに入学させて良かったと安心出来、そのような事が口コミで教職員の間で広まったりします。進路選択をするときにこのような特性があるなら細谷さんはどうかと職員の方から声が上がりますが、在校生の皆さんが良い情報の発信源になって真実が伝わるのかなと思います。

(事務長)

そのような事が広まっていくタイミングみたいなものはあるのかと思うのですが、3~4年前に一気に広まったのが小山方面かと思います。それまで小山方面の生徒はあまりいなかったのですが、その時は保護者の方が中学校で繋がりのある方へ広めてくださり、そのあたりからそちら方面の生徒が増えてきました。最近ですとここ1~2年水戸方面の生徒が増えてきた感じもあります。どのような経緯で広まったのかは分かりませんが、広めて下さった方と似た感じの生徒さんが来るのかなと感じる事はあります。

【萩野谷委員】

地域によって学校に対するイメージがそれぞれ違うということですね。

(事務長)

知人から勧められたイメージを抱いて、勧められた方が入学するという傾向はあるのかもしれない。イメージを大きく分類しますと、以前お伝えしました高等専修学校の4つの特徴で

- ・仕事に活かせる資格を取得できる！
- ・不登校経験者の自立を支える！
- ・多様な個性のある生徒の自立を支える！
- ・夢の実現をサポートする！

の4つに分かれてくるのかと思います。

【櫻井委員】

ホームページに在校生の声、保護者の声など、ここに進学させてよかったというページを作って発信しても良いのではないかと思います。

(事務長)

生徒や保護者の方の生の声みたいなのは確かに良いと思います。あとは、掲載することについて抵抗があるという生徒や保護者の方もいるような感じがしますのでそのあたりも検討内容になるかと思っています。

【櫻井委員】

名前ではなくイニシャルとかの形で載せるのは如何でしょうか。

(事務長)

ある程度匿名みたいな感じでイニシャルというのは掲載しやすいかと思っています。

【萩野谷委員】

何年男子、何年女子などでも良いと思います。

【櫻井委員】

卒業生については、何年度卒業生、のような感じでも良いと思います。

(事務長)

ポスターを作ったり、生の声を載せたりすると確かに広がりやすいかもしれませんね。

【上野委員】

中学校の先生から見た細谷学校の良いところを掲載するのも良いかと思っています。反対に、良いところだけではなく悪いところ、努力目標や改善点なども掲載するのも良いと思います。

2.2.3【検討内容Ⅲ】について

【検討内容Ⅲ】

事業計画書5(2)⑥地域との繋がりを構築する。(コミュニティでPR活動を実施)

- ・各地域の中学校校長会や進路指導研究会との連携状況の確認。
- ・地域コミュニティとの連携の実態調査と事例の収集。

地域振興分科会(茨城)での検討内容

地域とのつながりを構築することにより、高等専修学校の社会的認知度を向上させるとともに、生徒が何らかの成功体験を経験しながら自信をつけていける活動について研究する。

次に検討内容Ⅲについてですが、事業計画書では⑥の地域との繋がりを構築するということで、各地域の中学校校長会や進路指導研究会との連携状況の確認、地域コミュニティとの連携の実態調査との事例の収集となっております。こちらについて茨城では、今回の委託事業を進めていく中で筑西市の教育委員会に委員のお願いに伺った際に、上野先生から、校長会で高等専修学校の説明等をさせていただけたらという内容のお話をさせていただきました。その後、そのお話を教育委員会から下館西中学校の校長先生を通してスムーズに進めていただけました。その結果、12月に関城中学校で行われた筑西市の中学校の校長先生方がお集まりになる会で30分程度高等専修学校の説明をさせていただきました。今回は細谷高等専修学校の説明を通して高等専修学校の説明をさせて頂きましたが、今回のような取り組みを継続して実施出来るようになっていくと徐々に高等専修学校の具体的な内容が広がっていくのかと思っております。

例えばですが、2年前から保護者や中学生だけでなく中学校の先生を対象とした説明会を夏休みに2回程度実施しております。まだスタートして2年なので参加して下さる先生方も3~4名とか日によっては0名の時もあるのですが、参加して下さった先生方は現在の本校の内容をよく理解して下さり、早速その年に受験生を向けて下さる先生方も多いです。

少しずつではありますが、このような事を続けていけると良いのかと思います。あとは、場合によってはこちらから中学校に訪問しての説明会のご案内を5~6月に中学校にお配りさせていただくのも良いの

ではと思います。中学校の先生から希望ができれば日時を合わせて訪問し説明します、というものも今後実施していけたらと思います。こちらに来るのは忙しくて大変でも、中学校へ来てくれるのであれば時間を作っていただけるという中学校がありましたら、少しずつ高等専修学校について知っているという先生が増えていくのではと思います。

【松本委員】

本日、細谷高等専修学校に来てトイレに入っても思うのですが、男子トイレは個室ですよ。すごくインクルーシブ教育というかすべての子に配慮してやっていこうという姿勢が見えます。去年は同じ土俵に立ってもらうにはどうしたら良いのかと思ったのですが、おそらく下館一高、下館二高に行こうと思っている子について、同じ土俵にはなかなか立てないと思います。天秤にかけられる状態ではまだないのかと思うのですが高卒認定もとれるということの良さもある。今まさに細谷じゃないかと思います。コロナで不登校も増えていて一人一人の特性や能力を学校教育でどのように生かしていくのがすごく大切です。広く周知することも焦点化してターゲットを絞ってやっていくことも大切です。DVDやホームページもそうですが、このような良さもあるということ紙1枚でも作って特別支援学級に貼るなども良いと思います。先ほども足で稼ぐというご意見もありましたが、近隣の中学校にできるだけ足を運んで不登校や特別支援の生徒たちに進学先の1つとして選んでいただいて卒業する時にこんな就職先や、夢や希望をもってこんな進学先に向かっていきますなどの学校の様子などを知らせていくことで、一人一人に配慮した学校なのだということを知らせることが重要です。不登校の子たちも、通信制高校などの選択もあるが、その中でも細谷だと思ってもらえるようにしていくことがまずは大切かと思うので焦点化をはかっているのも良いのかと思いました。待っているだけでなくどんどん外に出ていきPRして行くのが良いと思います。紙1枚もたまたま見るということではなく焦点化をはかって例えば特別支援の子たちに資料として配れるようにした方が良いと思います。予算などもあると思いますが、自分の生徒や子供を安心してこちらの学校に預けられるというのが大切なのでそのようなアピールが大切です。

(事務長)

アピールする際のバランスのとり方がすごく難しいと思っていて、様々な生徒が来てくれるのですが、入った生徒に関しては卒業までしっかり見ていきたいという思いが土台の部分で強くあります。しかし小さい学校なので職員の数に限られていて、例えば現在の3年生ですと障害者枠で3人就職するのですが、1学年のうち3人くらいの生徒ですと障害者枠で就職を進める雰囲気の中で個別の対応を続けながら手厚く見ていけます。しかし反対にそのような子たちが1学年に10人とかに増えてしまうと、職員数の関係もあり3年間本人や保護者の方が満足する指導を継続していく事が非常に難しくなってしまう。現在は、県立高校で一斉指導の授業についていくのは難しいが、特別支援学校に行くほどではない、という生徒も多い状況です。様々な資格を取得したいという生徒や、中学まで不登校だったけれど、もともと能力が高いというような生徒がそれぞれ各地域からきていて現在非常にバランスが良いのではと感じております。生徒の特性が全体的にどちらかに寄りすぎてしまうとあまり良くないのかなと考えていて、入学対象を自分で何でもできる生徒ばかりに特化してしまうと、手厚く見てもらいたい生徒の受け皿でなくなってしまうし、大きな支援が必要な生徒ばかりだと人手不足になってしまい、限界がきてしまうので、そのあたりのバランスのとり方が難しい部分もありますが、その部分は非常に重要と考えています。ここ数年はそのあたりがとても良いバランスで受験していただいていると感じております。

【松本委員】

実は以前、関城西小学校に勤務していたことがありまして、先ほどスライドで映していただいた進路先一覧に知っている生徒の名前が出ました。最終的に大切なところは自立と社会参加だと考えています。そのうえでのキャリア教育や進路を考えていくことが必要かと思っています。先ほど出た生徒は小学校の頃は自立出来るのだろうかと思っていました。その生徒は進学でイラストの専門学校になっていました。小学校や中学校で活躍できなかった生徒も細谷が居場所になって楽しく学んだのかなと思っていました。普

通の高校だったら学校にも行けたか分からないし、目的もなく過ごしてしまったかもしれない家庭環境です。兄も不登校でした。

(事務長)

実はこの生徒のお母さんも細谷の卒業生なので、何か学校で問題等があった場合は、学校からお母さんに連絡するとお母さんが本人に色々と話してくれるので、個別に色々と指導していかなければならない部分はありましたが比較的スムーズに3年間過ごせた部分もあったかと思います。

【松本委員】

卒業生が中学校を訪問して頑張っていることを伝えるだけで学校の良さがみえてくると思います。そのような強みがある、その強みをアピール出来れば良いと思います。

【上野委員】

文化祭でも部活や個人で色々発表したりクラスごとに企画して準備したりしているので、文化祭の公開を企業関係の方や近隣の関係者に対して進めていくのも効果があると思います。その他、以前道の駅でのイベントにダンスやチアリーディングで参加したように、地域の色々なイベントに出ていくというのも良いと思います。

2.2.4 【検討内容Ⅳ】について

【検討内容Ⅳ】

事業計画書5(2)⑩学びのセーフティネット機能の充実強化により増加する『教員の負担』の軽減につながる 方策検討

・生徒一人一人に目が届くよう、業務内容の見直しと役割の分業化。

地域振興分科会(茨城)での検討内容

多様化する生徒一人一人に限られた教員で対応していくには限界もあり、それに対応するための業務内容の見直し及び校務分掌を含めた役割の見直し等を行い、良い意味での業務の効率化について研究する。

次に検討内容Ⅳについては、計画書で⑩に書かれている内容ですが、学びのセーフティネット機能の充実強化により増加する「教員の負担」の軽減につながる方策検討ということで、生徒一人ひとりに目が行き届くよう業務内容の見直しと役割の分業化について進められたらと考えております。本校では校務分掌などで役割分担を明確にできていない部分も多く、特に数年前までは今以上に職員が少ない状態でしたので、きっちり仕事を分担するのではなく空いている職員が仕事をするという形で進めてうまく回っていたのですが、近年生徒も増え、職員も増え、今後は完全までいかずとも、もう少し細かく役割分担を明確にしたほうが良いかと思っております。自分の学校しか知らないのも他の学校さんではどのようにしているのか、どれくらいの部分まで役割を分担しているのか、決まりとかはあるのでしょうか。

【櫻井委員】

今は何人くらいの職員の方がいるのでしょうか。

(事務長)

常勤が校長等の管理職も含め10人で、その他曜日によって一日中勤務する先生、自分の授業のみ勤務する先生等を合わせると32~33名です。実際に雑務をやっていくのは常勤の先生で、余力がある先生、授業数が少ない先生にどうしても仕事を任せることが多いのですが、そのような先生に仕事を任せていくと仕事が回りやすいという事もあり、どうしても一定の先生に仕事が集中しやすい状況です。

【櫻井委員】

学校でも校務分掌は決まっていますが、力がある先生に偏りはあります。若手の先生は発想が違うので、新たな分野をやらせようとしている部分もあります。細谷さんの職員で考える場合、先ほども話していましたが、生徒や保護者は就職や進学に興味を示すと思います。なので、進路、就職担当は確実に一人いた方が良くと思います。その先生が企業に訪問して学校をアピールしたりして、その企業で認められたり毎年就職する生徒がいたりして、細谷と企業のネットワークみたいなものが出来るようになると良いと思います。上野委員が言った通り足で稼ぐというのは大切だと感じます。アピールという点ですと、以前明野高校で生徒が集まらないということがあり、その時に校長先生がキャッチャーミットを持ってすべて受け止めます、というポスターを作ったことがありました。その印象が強く残っていてこの校長先生ならすべて受け止めてくれるのだろうと思いました。ただのポスターではなく、そういった何かキャッチコピー、細谷の良いところを描いたポスターが良いと思います。

検討内容3に戻ってしまうのですが、認知度を高めたいのであれば学校行事の中に地域のボランティアなどを入れたら良いと思います。それを新聞などに取り上げてもらうとか、コロナの時期でできないかもしれませんが、文化祭の学校解放など地域の方が細谷の良さも知れるように情報発信していくのも良いと思います。

【萩野谷委員】

私たちが一番苦労しているのは働き方改革です。学校現場でも教員の負担を軽減するということがここ数年の課題になっています。例えば今までの常識（昭和・平成）が令和では必要ないのではないかというものもあります。大きなものと、必ず小中学校で行っていた家庭訪問で、今はほとんどの学校で実施していません。ただ、現在も家庭確認はしています。コロナを良い機会として、それまで当たり前だったことを簡略化しています。また、私たちの場合は3～6年の間に人事異動があり、新しい風が吹くようになっています。

若手に任せようと思っても職員が同じ学校にいるわけではないのでそのような課題もあります。細谷さんはまめに職員が変わることはないですね。

（事務長）

長い先生は何十年もいます。反対に5年未満で入れ替わることもありまして、短い先生ですと1年でということもあります。

【萩野谷委員】

長い先生に負担がかかたりしますよね。

（事務長）

そうですね。仕事を任せる際に、細かな説明をしなくても細かなニュアンスも含め全部分かっていますので、それを考えると1年くらいの先生ですと細かなニュアンスまでその都度説明する必要がありますのでそれが説明する側の大きな負担になってしまうこともあります。そのような事もあり勤務3年目くらいになると同じ先生にどうしても仕事をふりがちになってしまいます。

【萩野谷委員】

実際力がある先生にお願いしてしまいますよね。うまく若手とベテランがチームになってお互いに学んでいけると良いのかと思います。

（事務長）

家庭訪問とかもそうだったのかもしれないですが、同じ学校の中にいるとやっている事が全部必要に思えてくるのではないかと思います。外部から見ると無くても良いのではという事もありますよね。そのような部分を減らすことが出来ればその時間をどんどん他の仕事にまわせると思います。

【萩野谷委員】

学校で必要だと思っても保護者から見たら必要ではないということもあります。保護者からの

学校評価（アンケートをとる）を参考にするとよいと思います。

（事務長）

どれだけ仕事を手厚くしていても、果てしなくきりが無いというのが面倒見の良さでそれについてはゴールがないものかと思います。他の中学校から細谷に就職した先生方からも、ここまでよく面倒をみってくれる高校は普通他にないです、と言っただけのも、面倒見の良さについて手ごたえを感じている部分の一つです。そこは今後も効率を求めて手を抜いたり省略したりしてはいけない部分と考えていますが、どこまでやるのか、という部分のコントロールも必要だと思います。そのあたりのバランスのととり方がとても難しいと思います。

【萩野谷委員】

中学校の部活動もそうです。教員の勤務時間などにより、平日の部活動も併せて最大週11時間というのが県の方針です。今までのように情熱だけで教育するのは難しいですが、県の方針に従いながらなるべく部活をやりたいと思っています。

（事務長）

限られた人員でまわしていかなければならないという部分について、介護関係の分野でも人手不足が続いていると思いますが、介護関係をいくつか経営されていて村上先生は如何でしょうか。何か限られた人員でまわしていく策みたいなものはありますか。

【村上委員】

福祉関係で働く人は減っている中、お年寄の数は増えているのでどうしようかと思っています。国が言っているのは多様な人材の活用ということです。介護職員がやらなくても良い簡単な仕事は介護助手。難しい仕事ではないものは外国人雇用。ICT化の活用（見守りなど）など色々ありますが、どこの業界も大変だと思います。

（事務長）

学校教職員となると外国から集めるのはなかなか大変なので難しい部分はあるかと思いますが、ハローワークに職員で求人は出しておまして、以前よりは問い合わせがくるので継続して出し続けています。給料などはやはり全体的にあがってきているのでしょうか。

【益子委員】

最低賃金が毎年格段に上がっています。最低賃金が東京では1000円までできています。全体的な賃金をあげましょうという方向性は間違いないと思います。個別に見た時にそれがどうかは分かりませんが、全体的な流れはそのような感じです。

（事務長）

本校も求人票の給与をあげないと来ないのかと思うので給料は前よりは少し幅をもたせて出しています。どのくらい出せばとなると、常勤の先生と授業のみの先生で変わってくるのですが、授業のみの先生においては中学校と同じくらいかもう少し高い金額で提示出来たら理想かと思います。その計算で1日にしてしまうと金額が大きくなりすぎて大変なのですが、授業のみの時間という形ですとなんとか出せる可能性はあります。

ただ、実習が多い授業が多く、作品作りの場合は教室に2人くらいの先生が入るのですが、2人だと倍の金額がかかるので高くすると学校の経営が成り立たない部分もあり苦労しています。

【益子委員】

求職されている方で教員を希望するという方は少ないです。教員免許を持っていても経験がないので実際に希望する方は多くないです。先ほど介護の話も出ましたが介護の業界も難しいです。条件ばかりではなく、職種によって希望がでないのもあります。

【村上委員】

教員の負担軽減の話ですが、今現在千葉県でスクールソーシャルワーカーをやっておりまし

て、千葉県は定時制高校に4年前まで自校給食を提供していたのですが、それが廃止されていて今はお弁当になりました。今年度お弁当屋さんに委託するのは難しく、現場からコンビニで良いのではという意見が出ました。セブンイレブンのお弁当を予約するかガストの配達でもいいですと県から言われました。一食200円の補助が出まして、これまでは県が指定したところのみだったのですが、どこで注文しても出るようになりました。

こちらの学校ではお弁当がない生徒にカップラーメンを食べられるようにしてあげていますね。どの辺まで出来るか分からないですが、保護者もお弁当は大変と思っている人もいますので事前にお弁当の注文を取るなどして、外部委託というのも良いのではないかと思います。

【上野委員】

教員の負担軽減について、仕事内容という質的な部分と勤務時間という量的な部分がありますが、質的な部分で言いますと、職員の資質に合った分業ということは大切かと思えます。

それと、人間関係の円滑化ということもあります。人間関係が良くなると教員同士の連携も良くなるので、ひとつひとつの仕事がまわりやすくなり結果として業務の効率化につながり、教員の負担軽減になるという部分はあると思います。

それとは別に、仕事をしていて楽しかったりして、仕事自体に生きがいややりがいを感じれば大変でもやっていける。反対に、それがないとひとつひとつの仕事に対しやらされている感が出てしまうので、気持ち的に負担を感じてしまうという部分もあると思います。

2.3 まとめ

4つの検討内容についてそれぞれ進めさせていただいたのですが、計画書だと①～⑩までありますので、この1年で一区切りということ考えた時に優先順位などありますか。全部同時進行で進めていった方が良いでしょう。本来であれば事業計画書を全部やれば理想なのですが、1年間でどのあたりを優先してやれると良いのか。検討内容Ⅰ～Ⅳについては全部必要かと思うので同時にすすめさせていただく形で大丈夫でしょうか。また、計画書①～⑩のほかの部分について、取り組んでいった方が良いでしょう。

【松本委員】

今年生徒定員は下回らないで進んでいますか。

(事務長)

今、1学年80名が定員になっていまして、水戸南高校と細谷学校の両方を卒業するBコースが40名、細谷学校だけ卒業するAコースが40名という形で合計80名です。ただ、大人数のクラスが苦手という生徒が多いので、それを考えると1学年は最大でも1クラス30名、2クラスで60名までという形が良いかと思えます。

無難ということだと1クラス20名くらいの2クラスが良いと思います。

今年は現時点ではAコースの生徒の人数が例年より多い状況で、Aコース8名、Bコース38名まで決定しています。

あとは、第2回入試の合格者の中で4名の併願の生徒が単願に変更になったのと、今年は女子の割合が例年より少し多い状況です。

【松本委員】

定員が埋まれば先生方への給料も高くなるのではないかと思います。

優先はⅡ、Ⅲなのかと思います。

【櫻井委員】

Ⅱ、Ⅲ番目が優先かと思いました。

(事務長)

では、検討内容Ⅱ、Ⅲを優先としまして、可能であれば検討内容Ⅰ～Ⅳまで出来る範囲で全体的に進めていけたらと思います。それぞれゴールがないような事項ではありますが、来年度が最終年度で一区切りとなりますので、一年後にはそれぞれ何らかの形になっているように進めていけたらと思いますのであと一年どうぞよろしくお願い致します。

3-4 神奈川県（担当校：岩谷学園高等専修学校）

文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
高等専修学校の学びの「セーフティーネット」
令和4年度 地域連携委員会（神奈川県）実施報告

開催校 学校法人岩谷学園 岩谷学園高等専修学校

1. 第1回会議

1-1. はじめに（第1回会議）

本日は、「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の委員会にご多忙の中ご出席いただきましてありがとうございます。また、日ごろから神奈川県の専各協会の事業にお力添えをいただいておりますこと、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、学びのセーフティーネット機能の充実、高等専修学校機能高度化に関する調査研究ということで委員会を開催いたしますが、今、神奈川県で高等専修学校に通っている生徒さんが約1,600人、全国では35,000人ということで、コロナの時期の「職業」というところに非常にフォーカスをし、教育を行っている高等専修学校と言えると思っています。

ただ、そういった意味合いを持っている中、アンケートの内容にもあるが、実際に高等専修学校を知っている中学校の先生方が約6割、そして実際にそれを生徒や保護者に説明できるという先生は16%と知名度の低さを改めて厳しさを感じます。また、教員の方の年齢を絞っていくと20代9%、説明できる方は2%という状況になります。やはりこの認知度についてはこの先上げていかなければいけませんし、実際に高等専修学校がどういう学校で、どういう意味があるのか、そして生徒たちにどういうメリットがあるのかをしっかりと伝えていかなければいけないと思っています。本日は、中学校の先生方もいらっしゃいますので、様々な意見を頂戴しながら高等専修学校のメリットや価値、意味合いなども含めてこの事業委員会を進めていけたらと考えております。本日はどうぞよろしくお願い致します。【清水委員】

今年度、神奈川県公立中学校校長会会長をしております、厚木市立南毛利中学校校長の奥脇と申します。本日は校長会の方から藤沢市立第一中学校の北井校長と参加させていただいております。どうぞよろしくお願い致します。

先ほどの清水会長のお話を聞きながら、そんなに認知度が低いのか・・・と実感しつつ、私たちも中学校の現場で生徒たちと関わる年数は30年以上になりますが、進路指導の中で高等専修学校の魅力それから学校での機能としてさまざまな技術や知識などできる力を育てていただいて、大事に3年間育ててきた子どもたちを高等専修学校の先生方にさらに育てていただき、さまざまな社会での活躍をしている生徒を目の当たりにすることがありました。これからまだまだ認知度を上げていく、また高等専修学校の先生方が日頃らご尽力されている取り組みをきちんと伝達していく橋渡しをしていかなければいけないと実感しております。

私は何人か資格の取れる学校へ送り出していますが、例えば調理師学校で学んだ子どもたちが、まずは下積みの段階で日本食をやりたいと、いろんな形で技術を磨いて、就職したところでいろいろな経験値を上げ

ていきながらいつかお店を出したいと、そういう思いをもって報告に来てくれる卒業生もいます。それから、日ごろ口数が多くなかった生徒が器用だったので何かもの作り、特に舞台衣装などの洋装の部分の力を伸ばそうと、高等専修学校へ進学をされ、卒業時に自分たちのテーマに沿ったファッションショーのときにウェディングドレスで出てきたときには本当に涙が出そうになりました。

また、中学校時代に進路を悩んでいたが、ヘアメイクやメイクアップに興味があり、理美容の学校に進学し、夏休み中にその人に合ったメイクをして写真を撮ってくるという課題があり、校長室に来て輝きのあるメイクをしてくれました。こういう力を高等専修学校の先生方が育てくださり、社会で生きる力、そしてその子たちが生きがいをもって社会人として活躍する場のベース作りをしてくださっていると日頃感じています。子どもたちが持っている資質を伸ばしていただく大事な学校現場であることを感じています。

県内は408校の公立学校がありますが、「オール神奈川」という意識で取り組んでおりますので、こういった会議を通して私たちも先生方の思いを受け取りながら伝達をして進路指導に役立てていきたいと思っております。本日はよろしく願いいたします。【奥脇委員】

1-2. 第1回委員会実施概要

実施日時：2022年11月9日（水） 15:00～17:00

開催場所：学校法人岩谷学園 1号館3階 301ホール

会議次第：

1. 開会

神奈川県専修学校各種学校協会 会長 清水委員

神奈川県公立中学校長会 会長 奥脇委員

2. 自己紹介

3. 神奈川県の高等専修学校の取り組み

神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 副委員長 岩谷委員

4. 本事業の概要説明

神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 副委員長 岩谷委員

5. アンケート調査研究等について

神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 副委員長 岩谷委員

6. 意見交換

7. そのほか

8. 閉会

神奈川県公立中学校長会 副会長 北井委員

神奈川県専修学校各種学校協会 副会長 大田委員

構成委員：(23名)

清水 裕 神奈川県専修学校各種学校協会 会長

学校法人清水学園 湘南平塚看護専門学校 理事長

大田 裕多佳 神奈川県専修学校各種学校協会 副会長

学校法人早見芸術学園 鎌倉早見美容芸術専門学校 理事長

植田 威 神奈川県専修学校各種学校協会 副会長 学校法人岩崎学園 理事

奥脇 裕子 神奈川県公立中学校長会 会長 厚木市立南毛利中学校 校長

北井 淳一 神奈川県公立中学校長会 副会長 藤沢市立第一中学校 校長

鈴木 之一 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員長

学校法人敷島学園 ヨコス力調理製菓専門学校 理事長

柏木 照正 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 副委員長

学校法人柏木学園 大和商業高等専修学校 理事長

岩谷 大介 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 副委員長
学校法人岩谷学園 岩谷学園高等専修学校 校長

辻野 晃 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人生蘭学園 生蘭高等専修学校

鈴木 聖奈 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人鈴木学園 専門学校神奈川総合大学校 校長

山本 譲 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人梅原学園 アイム湘南理容美容専門学校

川口 賀久 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人鈴木学園 厚木総合専門学校

渡邊 志の輔 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人岩谷学園 岩谷学園高等専修学校

永山 佐知子 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人鈴木学園 専門学校神奈川総合大学校 副校長

田口 尋夢 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人新堀学園 専門学校国際新堀芸術学院

新留 光一郎 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人野田鎌田学園 野田鎌田学園横浜高等専修学校 校長

窪田 正仁 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人柏木学園 大和商業

庄司 裕之 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人恭敬学園 横浜芸術高等専修学校 事務局次長

甲方 裕之 学校法人岩谷学園 就労移行支援事業所アイ・ビリーブ 所長

志村 秀穂 学校法人岩谷学園 岩谷学園高等専修学校 副校長

折笠 初雄 学校法人岩谷学園 本部 本部長

片岡 真一 学校法人岩谷学園 本部 課長

小川 功益子 学校法人岩谷学園 本部

1-3. 神奈川県の高専学校への取り組み

■広報活動

<広報媒体の制作>

今年度「高等専修学校が進路先の一つあることをPRするため、広報媒体を製作し、県下全公立中学校及び近隣の中学校に配布する」ということをさせていただいております。「2023 高等専修学校進学ガイド」「高等専修学校リーフレット」「高等専修学校 DVD」を作製し中学校においていただいております。

<高等専修学校展>

7月18日クイーンズサークルにて実施をさせていただきました。生徒及び保護者を対象として中学3年生からキャリア教育ということで、ちょうど「私立の学校展」を実施する時期ということで、同じ日に開催させていただきました。私立学校展は予約制ということで、どのくらい来るか不安ではあったのですが、非常に多くの中学生、保護者様にきていただきました。

<高等専修学校進学説明会>

中学校進路指導担当教員対象の進学説明会を夏休み8/18・19と横浜会場ということで、「かながわ県民セ

ンター」で実施させていただきました。8/22は厚木会場ということで「厚木総合専門学校」で開催いたしました。若い先生に参加していただき、各学校の説明をさせていただきました。

＜県教育委員会主催「不登校生徒・高校中退者のための進路情報説明会への協力＞

「県教育委員会主催「不登校生徒・高校中退者のための進路情報説明会」ということで、県下複数地区で行われる不登校生徒・高校中退者対象進路情報説明会で高等専修学校の情報共有ということで発表と個別相談の対応をさせていただきました。

その他、10/30に「進路に関する個別相談会」を中学生、保護者対象に実施しました。

これらの広報活動を通して、いかに認知度を高めていくか（中学生・保護者の方に知ってもらえるか）が一つの大きなポイントだと思っています。

■情報交換会

＜神奈川県公立中学校長会との情報交換会＞

今年は6/3に実施いたしました。毎年実施している交換会ですが、高等専修学校の委員会として非常に大きな意味を持つ会だと考えており、高等専修学校について非常に多くのご理解をいただいております。認知度がなかなか上がっていかないという現状ではありますが、進路指導では通信制やサポート校など様々な選択肢がある中で高等専修学校を知ってもらい難しさやどんな学校なのか？などを伝えることが非常に難しく、高等専修学校の委員一人ひとりがしっかりPRをしなければならないと常に感じております。

＜高等専修学校委員会勉強会＞

実際に神奈川県公立中学校長会進路委員長に来ていただき、中学校の進路指導の状況や流れ等をお伺いし、非常に有意義な勉強会となりました。

＜各地区校長会並びに進路指導協議会での事業説明＞

藤沢地区でもお話をいただき、厚木総合専門学校の川口先生と一緒にお話をさせていただきました。また松本中学校の進路の役員の先生が集まるタイミングでお時間をいただき高等専修学校の説明もさせていただきました。その際、ぜひ地区の進路委員が集まる中で少しでも高等専修学校の説明をさせていただきたい旨をお話いたしました。こちらにつきましては順次、準備をしていき進めていければと思います。

■教育連携の推進

＜仕事のまなび場 Jr の開催＞

高等専修学校の委員が講師という形で実際に中学校に訪問、また高校に来校していただき職業体験を実施しております。少しずつ参加校が増えてきて今年度は40校の申込がありました。中学校の先生方にも実際に見学していただき、理解を得ているという状況です。

＜その他＞

文部科学省事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業・学びのセーフティーネット機能の充実強化」の実施 【辻野委員】

1-4. 本事業の概要説明と意見交換

■事業の概要

『全国の高等専修学校では、多様な個性を発揮する生徒を積極的に受け入れ、職業教育をベースにその個性に合わせた多様な教育活動を展開しています。すべては生徒の将来的な経済的自立を支援するためであり、各学校では献身的な生徒指導、人間教育を通して、多くの生徒に目標を獲得させ、高等教育機関へと送り出しています。』

しかし、その教育環境には様々な問題点が存在し、決して十分な環境下で教育が展開されているわけではありません。また、社会的認知の欠如から、大学入試における格差や私立高校との格差の広がりもあり、現状把握と課題の明確化が重要となっています。さらに、地方と都市部では、その問題点には違いがあり、全国すべての高等専修学校がそれぞれ何らかの問題点を抱えながら、教育を継続させているのが実態であ

ります。』→先ほど鈴木先生からお話がありましたとおり、高等専修学校について理解が不明瞭な点が多いのが現状です。

『以上の実態を改善へと進めるためには、今まで以上に高等専修学校の教育の現状と教育成果を社会にアピールし、学校情報や自己評価の公開による教育の質保証に努めていかなければなりません。そして、これからの時代に必要な学校種になるために、実態調査を進め、その結果の数字を全国の高等専修学校の声として、社会に投げかけ、更なる高等専修学校の推進を図る必要があります。

本事業では、高等専修学校の社会的認知の向上と格差問題等の解消を視野に入れ、これまでの取り組みで明らかになった高等専修学校の現状を踏まえ、継続した実態調査による課題把握と精査により、地域差、さらには全国共通の課題を明確にすることで、真の高等専修学校の学びのセーフティネットの確立を目指したいと考えます。』→文科省に提出している一番新しい事業の概要になります。(資料3)

■事業の実施体制

実施委員会>地域振興分科会>12の都道府県。毎年、この中から6~7県が議論を行って、文科省に様々な意見を提出する形になっている。

神奈川県は毎年実施しています。概要につきまして、昨年実施したものを説明してまいります。

<資料3 参照>

■2020年度実施アンケート結果(P64) / 2021年度実施アンケート結果(P72)

→中学校50校、先生約150人を対象に実施

※アンケート結果は、神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会でも共有しております。

・質問1：高等専修学校について

知っている / 聞いた事がない / 知らない

「知っている」と多くの方が答えていますが、「聞いた事がない」「知らない」と答えた方が1/4くらいいます。

・質問2：高等専修学校の分野をいくつご存じですか？

8分野中で聞いております。(工業分野107/衛生分野(調理)111/衛生分野(美容)96)

・質問3：ご存じの高等専修学校

こちらを確認いただくと高等専修学校の認知度が確認できるかと思えます。アンケートを取った場所にもよるが、「生蘭高等専修学校」や「大和商業高等専修学校」が上位を占めております。

・質問4：支援が必要な生徒の受け入れについて

職業教育がしっかりベースにある高等専修学校ですが、支援が必要な生徒の受け入れも多く行っております。「知っている」が半分も行かない(44%)、「聞いた事はある」「知らない」は半数以上という結果。

・質問5：私立学校と同様の支援制度があることについて

以前も会議でも「支援制度についてもう少しPRした方がいい」という意見がありました。高等専修学校イコール支援がないのではないかと・・・というようにとらえられている若い先生もいらっしゃるのではないかと。

<辻野委員>

やはり、私立学校と同様の支援がもらえるという認識が少ないと考えます。その背景として、通信制高校については国の補助は受けられるが、県の補助は受けられないなどもあり、通信制高校と混在してしまうケースがあります。高等専修学校は神奈川県に認可されているため、県の補助も受けられます。最大で45.6万円補助が受けられます。私立学校と同様の支援を受けられるということをしっかりPRしていく必要があると感じます。

・質問6・7・8：どういった活動を行っているか？

「知らない」方が非常に多いこともあり、委員会でもしっかり周知をしていく必要があると考えます。

・質問 9：高等専修学校の DVD をご存じですか

「視聴した」が 4 と非常に少なく「視聴してないが知っている」「存在を知らない」が非常に多い。

個人情報や著作権の問題がクリアできれば YouTube などにアップして QR コードを先生方に配布などして周知した方がいいかと考えています。

・質問 10：生徒や保護者に紹介したことはあるか

「はい」122 名と 1/4 を占めて非常に多いです。

・質問 11：高等専修学校の情報を知りたいか

「どちらとも言えない」44 名と比較的多いことから配慮が必要と考えます。

・質問 12：回答者の年代について

比較的 20・30 代に回答をいただいています。

■セーフティーネットの取り組みについて

・委員会で様々な意見をいただいたものを委員会に持ち帰り具体的にしたものになります。先ほどありました、DVD についても、YouTube での発信にかえていく取り組みを進めております。

・ワーキンググループを作り、実際に若い先生方を中心に中学校の先生と高等専修学校の先生で PR というのではなく、生徒たちがいかに進路実現ができるかを考える場の必要性。

・昨年、一昨年については「セーフティーネット」という名前の由来の部分になりますが、インクルーシブの意見が活発に行われました。県立高校のインクルーシブで力を発揮できる生徒もいますが、そうでない生徒も多くいるなかで、そういった受け入れを高等専修学校ではできるという意見も多くありました。

・中学校の先生方から、中学校のシステムも考え直す必要があるのではないかと意見もありました。中学校では 12 月くらいから面談、多くの生徒が高校進学（97%以上）学歴社会ではないが、全日の高校へ行き大学に進学して将来を考えるという流れになっている。そして、段階的に公立高校がダメだったら私立高校を考え、次にサポート校、そして高等専修学校となっている可能性もあるのではないかと…というご意見もいただいております。

・「高等専修学校」というタイトルコールは今後通じないのではないかと？高等専修学校は、職業教育、そして技術向上、サポート教育これらをまとめて PR していく必要があるのではないかと。これら多くの意見が上がりました。

■意見交換

高等専修学校の認知向上、そして PR 方法、進路保障についてなどご意見をお願いいたします。

<窪田委員>

「セーフティーネット」について高等専修学校が必要になってきている部分があるのではないかと感じます。高等学校では評点平均などの枠がある中ですが、高等専修学校ではそういった枠の無い中で、「勉強をやりたい」「こういう授業ならやってみたい」という生徒を活かしていきたいと考えていますので、これらを効率よく中学生や保護者にどのようにして宣伝していくかが大事になっていくのではないかと考えます。

<渡邊委員>

中学校の支援級の生徒さんがオープンキャンパスに来る場合、中学校の先生からの紹介がほとんどです。普通級の生徒さんではあまりいないのが現状です。普通級だと先生方も言いづらいのかなと感じます。直接中学生の生徒さんにお話ができればですが、例えば「まなび場 Jr」で最初に必ず「高等専修学校を知っているか？」と聞くのですが、ほとんどが知らないと答えます。中学生に直接伝える機会があるといいのかなと感じます。

<清水会長>

東京のデータ「高等専修学校を知っている：29%」「高等専修学校について説明できる：19%」

神奈川県ではまだ認知されているのかなと。ただ、すべてをしっかりと説明できるかとなると神奈川県でも2割程度になるのではないかと感じます。

高校を決めるときに生徒本人より保護者のウエイトが大きいのではないかとそのあたりを少し伺いたいです。

<奥脇委員>

保護者も生徒本人もまず考えることは、「高等学校を卒業したい」「高等学校の卒業資格を取る」というのが先になります。そうするとそれが取れるのは高校進学ということになります。どちらかという、若い先生方に幅広い進路選択の情報がないのかもしれない。自分自身がたどってきた進路としての、高校卒業（私立・公立）そして大学へ進学して教員免許が取得できる授業を受けて今があります。社会に開かれているさまざまな道筋を知らないケースが多いのかなと感じます。

保護者の思いも自分たちがたどってきた道筋で、実際に持っている才能を活かせる場というのはたくさんあるのに、情報がきちんと伝わっていないということがあるかもしれません。

<北井委員>

進路指導をしていく中で、子どもたちは何がしたいのかが明確になっていない。中学校で明確にならず、高校に行きそのあと大学へ行くかを決める生徒がほとんど。そのために時間を使う。このようなスタンスの生徒がほとんどです。また、保護者の理想と自分自身の現実があり、そのギャップを埋めなければいけない、じゃあどうしようか・・・となります。次の最善策を考えるようになります。生徒も進路や5年後10年後のビジョンがないし保護者も夢を持ちますし、ギャップが生じてしまう。

高校に入れば生徒自身に任せるようになるので、とにかく高校まではという考えが保護者にもあるのではないかと感じます。そういった意味でも保護者のウエイトは大きいと感じます。

<奥井委員>

そのギャップが生じたときに持ってくる選択肢として定時制や通信制があげられます。本来はその子の特性や持っている才能を活かせる教育現場あるいは進路先を考える必要があるがその情報がないということになってしまう。先ほどDVDの視聴が少なくとおりましたが、さまざまな教育現場あるということはこの先もっとアピールしていく必要があると感じます。教員の立場からすると、高等専修学校で自分の才能を伸ばしていることを目の当たりにすると、魅力ある教育現場である高等専修学校をしっかりとアピールできればと思います。

<辻井委員>

高等専修の認知度や知名度が少ないので、そもそもの分母が小さい。まずは分母を増やしていかなければいけない。高等専修学校の進路先をもっと明確にする必要があるのではないかと。中学校の先生に高等専修学校に行けば、高校卒業の資格も取れます。また例えば調理系であれば調理だけと思われがちで、高等専修学校には行ったら進路は調理系だけというイメージになってしまっていますが、もちろん高校卒業の資格も取れますし、大学へ行くための資格も付与されますので、卒業後、違う進路選択もできます。他のところではなかなかできない進路選択があるということをもっとアピールできればと思います。高等専修学校を卒業した先の進路をもう少し今後しっかりと説明することで認知度も変わってくるのではないかと感じます。

高等専修学校の技能連携などの説明が複雑で高校の先生方は特に分かりづらく感じるのではないかと。チラシなどでもう少し分かりやすく伝えることができるのではないかと。3つ折りのリーフレットではなかなか開いてもらえないので、できればA4チラシであれば、保護者の方も見やすいのではないかと思います。

<岩谷委員>

認知拡大で様々な県でいろいろ行っているが、茨城県ではテレビCMをやろうとなっているが、見積を取ったが非常に高くできないなどもあります。

<宅間委員>

保護者と学校サイド、生徒本人とイニシアティブをとって、3つの関係性を大事にして丁寧に行っています。

オープンキャンパスに参加した生徒本人、保護者にしっかり説明して体験してもらう。そして中学校の先生にも情報を共有することを大事にしています。最終的には、保護者、中学校、こちらサイドでその子をどうしていきたいかをしっかり考えることが必要になります。

高等専修学校を選択する際に、仕方ないからというマイナス要因ではなく同じ土俵で考えてほしいと感じます。認知度を上げるために進路先だけではなく、やはりメディアでのアピールも必要ではないかと感じます。

<庄司委員>

本校は、通信制高等学校から高等専修学校で新たにスタートした学校になります。高等専修学校の魅力は何かを考えながら運営を行っています。卒業生もこれからになりますので結果はこれからになりますが、これまで通信制の学校で送り出していた時に学校になかなか通えない生徒もいましたが、新たなスタートを切ろうということで大学に進学や就職をするのですが、社会の中でうまくいかないこともあり、転職、あるいは途中退学をしてしまう生徒をたくさん見てきているので、高等専修学校では、3年間でより社会に対して強く踏み出せる力を身につけさせてあげられるのではないかと強く感じています。それが高等専修学校の役割ではないかと思っています。通信制と高等専修学校では3年間で培われる力はだいぶ違うのかなと感じます。

<永山委員>

「仕事のまなび場 Jr」に参加させていただいておりますが、中学校に行きますとみんなイキイキとしております。中学校に行きますと良かったのでまたお願いしますとなりますが、毎年同じ学校になってしまいます。できれば、幅広い中学校になるといいかと思っています。「仕事のまなび場 Jr」も含めさまざまな形で高等専修学校を知ってもらう場としてPRができればと思います。

<岩谷委員>

「仕事のまなび場 Jr」の受け入れ体制がいっぱいになってしまう現状がある。(令和4年度募集は終了)あとは、「各学校に合間い合わせください」という対応をお願いできればと思います。

現在、高等専修学校について保護者説明会を行っていますか？

<渡邊委員>

本校(岩谷学園高等専修学校)は発達障害の生徒が多いので、受けられる支援や、卒業後につけられる支援などについて、定期的に年3回~4階保護者勉強会(アップルタイム)を実施して、保護者が知りたい内容の希望を取って行っています。

<甲方委員>

辻野委員がおっしゃった「卒業後の進路を伝える」というのが非常に大事ではないかと思います。説明会にいらした生徒さんや保護者の方に対して、高校を卒業してIピリブがあります。こういった支援を行っています。その後就職先はこんなことがあります。就職が難しかったら、2年間という縛りはありますがIピリブ（自立訓練）があります。高等専修学校に入学してから10年くらいの付き合い、支援がありますという安心できる環境であることを伝えることが必要。「そのままでいいですよ」ということを伝え、ここだったら安心と感じてもらうことが稚拙ではないかと思います。

<岩谷委員>

本日でみなさまからありましたご意見等につきましては、持ち帰り議論をしていきたいと思います。また、アンケートにつきましては、今後またお願いできるかどうか打ち合わせをして決めていきたいと考えております。内容については委員会でもんでいきたいと思います。

<鈴木理事>

高等専修学校の認知について、中学校訪問をする際に学校の説明をする前に高等専修学校とは？から入ることが多く、学校の特長を話す前にまず高等専修学校の理解になり、その説明だけで終わってしまいますケースがあります。神奈川県で高等専修学校の認知を上げていく必要がある中でテレビCMもお金があればやるべきことだと思いますが、費用面で難しい中やれることとして、インスタグラムやTikTokなどのSNSではないかと考えます。昨日のニュースで札幌の高等専修学校では、TikTok部というのを作り、動画を作り配信したところ、学校説明会の参加者が前年度の4倍アップという実績を出しています。動画を作成するという事は非常に大変ですが、こういったこともしていかなければいけないかなと感じます。

本校も昨日学園祭の動画をアップしまして20万回再生されました。効果はとてもあるのではないかと思います。

<折笠委員>

学校は最後ではない！親御さんの願いは、自立して社会に出て欲しいと思っている。しかし社会は厳しい中で、社会に出ていく力が必要になってくる。高等専修学校は、一人ひとりに寄り添いますという特色をPRしていく、そして実際に高等専修学校の先生方が社会に出ていくためにしっかり生徒に寄り添っている姿を見ていると、そこをうまく伝えられたらと思います。

北海道の専門学校に高等専修学校の生徒が修学旅行に来ました。その時、担当の方や観光協会の方が今まで何十年とやってきましたが、一番素晴らしい生徒さんが来ました。挨拶はしっかりする、常にきちんとしている、どのような教育をしているのですかと驚かれていました。なかなか高等専修学校であることを伝えたのですが・・・そういった教育もしっかりしているということも大切。子どもたちも胸を張れた。そういうひとつのムーブを作っていくということも必要なのではないかなと。

ここがセーフティーネットではないかと。やり直しをする子たちもたくさんいる。

高等専修学校に任せたらちゃんと次のステップに進めてくれる、何かあったとしてもチャンスは何回でも用意しますよということが大切なのではないかと思います。

【今後の流れ】

本日の意見→神奈川県専修学校各種学校協会に持ち帰る→委員会で議論→実施内容の具体化
→第2回事業委員会にて報告・議論（どう動いたか、どう動くかを話し合う）

※第2回事業委員会日程は2月を予定

1-5. おわりに

今年の 8・9 月に高校の入学定員を決める会議に出席しました。今年、全日制の進学率は 90% を切りました。切った理由としては広域通信制への進学が増えていることが要因ではないかと考えます。高等専修学校がセーフティーネットという立場で組織を作っているということも初めて知りましたし、危機感を持って臨まれていることもわかりましたので、何かお手伝いできないかと思っております。昨今、授業も情報化、ICT 化ということを言われていまして、作っていくという部分がないがしろになっているのではないかと感じます。コンピューターではできない部分もあるのではないかと。その部分を追求していくことが職業教育につながるのではないかと感じます。ICT 化とともにもの作りを大事にすることが必要だと思います。また中学校がそういう制度を作っていないといけないのではないかと感じました。本日はありがとうございました。【北井委員】

さまざまな意見が出されたかと思いますが、昨年中学校校長会の中村先生から生徒を支援するためにどういう学校があるのか知る必要があるということをおっしゃっていましたが、まだ解決していないなど、いろいろ解決していないことがあります。この先ある程度の方向性を出し、中学校側にお示しをする必要があります。本日キーワードとして「知名度」という言葉が出てきました。また、何を学べるのかを周知する必要があるのではないかとということ、そして出口の問題が問われますということ、それからどんな資格が取れるのかなど、中学校の先生をはじめ、保護者の方々に分かってもらえないということがキーワードとして出ておりますので、高等専修学校委員会で解決できるような回答を出していただいて提案が少しでもできるよう次回の（2 月）に向けて進めていければいいのかと思います。

少しでも中学校側に寄り添える情報提案ができれば、また保護者の方にも説明する機会ができればいいかなと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。【大田委員】

2. 第 2 回会議

2-1. はじめに

本日はご多忙の中、「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」学びのセーフティーネット機能の充実、第 2 回事業委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

また、日ごろは神奈川県専修学校協会各種学校協会の各種事業、プログラムにご協力いただき誠にありがとうございます。お礼を申し上げます。

さて、高等専修学校は中学校を卒業して進んでいく学校となりますが、特に発達障害や不登校など、大変多様な生徒さんを受け入れ、職業教育を行ったうえで就職あるいは進学へと結びつけているということで、とても重要なポジションを担っている教育機関と認識しております。ただ、多様性であるがゆえに現場の先生方も非常に苦労されています。また、地方と都会では問題点も大きく違ってくるということで、まずは全国的に問題点をとらえたうえで高等専修学校の機能強化を図っていくということが今回のプログラムの趣旨となります。日常で先生方が教育をしていく中で問題点等あるかと思っております。本日はアンケート調査報告、事例発表等ございますが、それらを踏まえたうえで先生方の生の声をお伺いして、このプログラムを充実したものにしていければと思っております。短い時間ではありますが、本日はどうぞよろしくお願いいたします。【清水委員】

本日は第 2 回ということで、いろいろな取り組みの成果、課題をこの会議の中で確認しながら、中学校での取り組みに活かしていければと思っております。

先日、1 月の会議のときに鈴木委員長様、岩谷副委員長様にお越しいただきまして、今回の調査に関わる説明と様々な取り組みについて説明をしていただきありがとうございました。こういった取り組みの趣旨を

受けて学校現場では、自分の人生設計と向き合っている子どもたちにいろいろな支援、自分の力、個性を伸ばしていくための多様な学びの機会というものを提案していくためには皆様のご支援、ご協力があったる子どもたちの未来だと思っております。本日、いろいろな意見を伺い学校現場で活かしていきたいと思っております。本日はよろしくお願ひいたします。 【奥脇委員】

2-2. 第2回委員会実施概要

実施日時：2023年2月6日（月） 15:00~16:30

実施場所：学校法人岩谷学園 1号館3階 301ホール

会議次第：

1.開会

神奈川県専修学校各種学校協会 会長 清水会長

神奈川県公立中学校長会 会長 奥脇委員

2.アンケート集計の報告

神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 副委員長 岩谷委員

3.高等専修学校の取り組み 事例に基づいた紹介

①野田鎌田学園横浜高等専修学校

②横浜芸術高等専修学校

③横浜デザイン学院

4.そのほか

5.閉会

神奈川県公立中学校長会 副会長 北井委員

神奈川県専修学校各種学校協会 副会長 大田委員

構成委員：(24名)

清水 裕 神奈川県専修学校各種学校協会 会長
学校法人清水学園 湘南平塚看護専門学校 理事長

大田 裕多佳 神奈川県専修学校各種学校協会 副会長
学校法人早見芸術学園 鎌倉早見美容芸術専門学校 理事長

植田 威 神奈川県専修学校各種学校協会 副会長 学校法人岩崎学園 理事

奥脇 裕子 神奈川県公立中学校長会 会長 厚木市立南毛利中学校 校長

北井 淳一 神奈川県公立中学校長会 副会長 藤沢市立第一中学校 校長

鈴木 之一 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員長
学校法人敷島学園 ヨコス力調理製菓専門学校 理事長

柏木 照正 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 副委員長
学校法人柏木学園 大和商業高等専修学校 理事長

岩谷 大介 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 副委員長
学校法人岩谷学園 岩谷学園高等専修学校 校長

辻野 晃 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人生蘭学園 生蘭高等専修学校

鈴木 聖奈 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人鈴木学園 専門学校神奈川総合大学校 校長

山本 譲 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人梅原学園 アイム湘南理容美容専門学校

川口 賀久 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員

学校法人鈴木学園 厚木総合専門学校

- 渡邊 志の輔 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人岩谷学園 岩谷学園高等専修学校
- 永山 佐知子 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人鈴木学園 専門学校神奈川総合大学校 副校長
- 田口 尋夢 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人新堀学園 専門学校国際新堀芸術学院
- 新留 光一郎 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人野田鎌田学園 野田鎌田学園横浜高等専修学校 校長
- 窪田 正仁 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人柏木学園 大和商業
- 庄司 裕之 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人恭敬学園 横浜芸術高等専修学校 事務局次長
- 宅間 智久 神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人石川学園 横浜デザイン学院 入学相談課 課長
- 甲方 裕之 学校法人岩谷学園 就労移行支援事業所アイ・ビリーブ 所長
- 志村 秀穂 学校法人岩谷学園 岩谷学園高等専修学校 副校長
- 折笠 初雄 学校法人岩谷学園 本部 本部長
- 片岡 真一 学校法人岩谷学園 本部 課長
- 小川 功益子 学校法人岩谷学園 本部

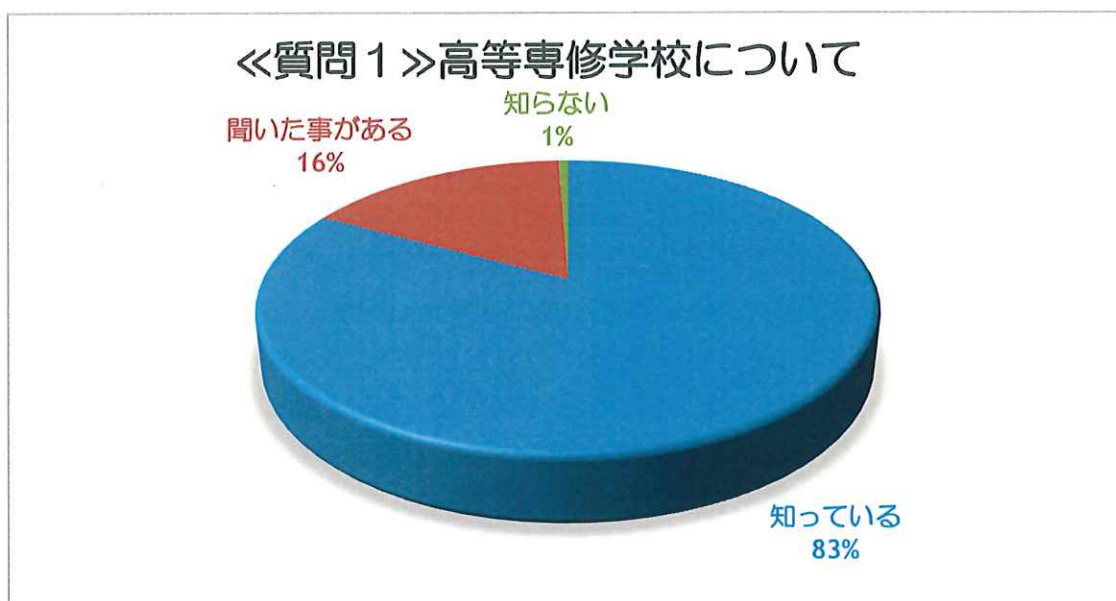
2-3. アンケート集計のご報告

アンケートは今年で3年目となりますので、過去の数字をお話ししながら説明をさせていただきます。

<質問1>高等専修学校について

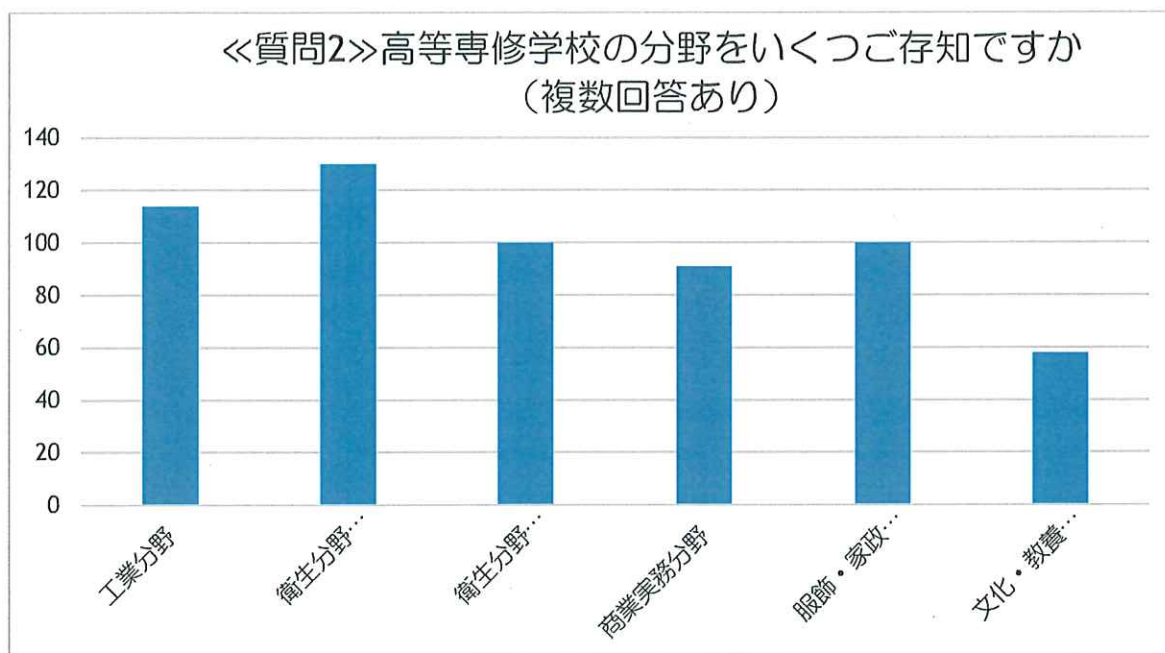
- ・知っている 2022年度 136 / 2021年度 127 / 2020年度 126
- ・聞いた事がある 2022年度 27 / 2021年度 39 / 2020年度 24
- ・知らない 2022年度 1 / 2021年度 1 / 2020年度 3

※知っているが増えたのではないかと思います。



<質問2> 高等専修学校の分野をいくつご存知ですか（複数回答あり）

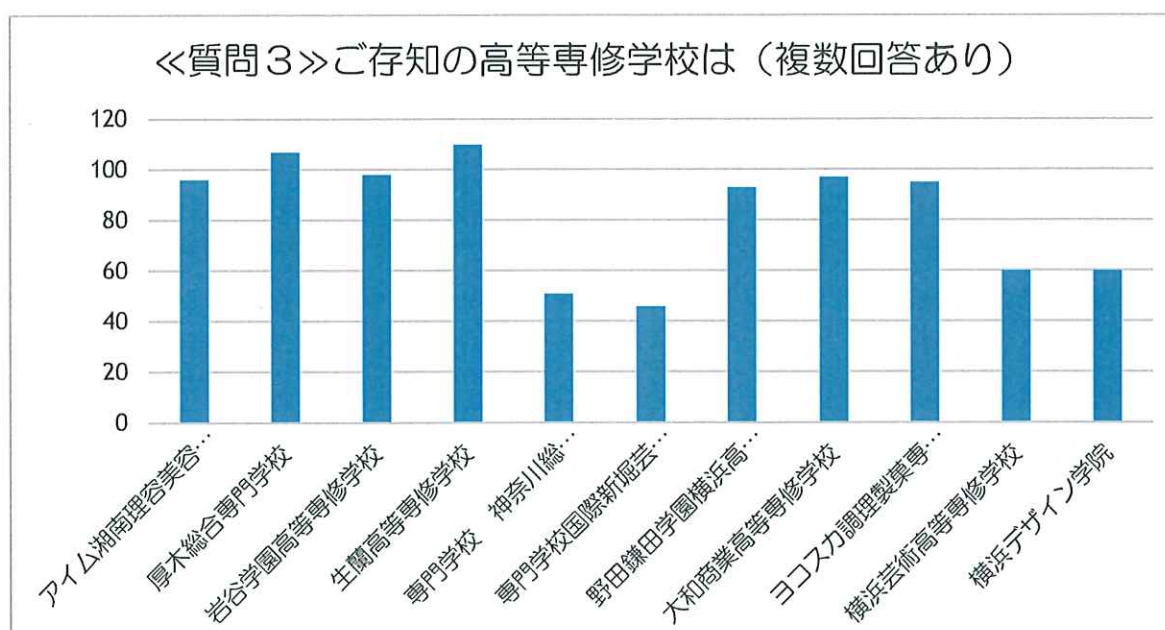
※3年間とも大きな順位の変動はありません。変動したところは、「商業実務分野」「服飾・家政分野」の認知度が昨年とは逆になっているということで、「工業分野」「衛生分野（調理）」「衛生分野（美容）」が高く認知されているといった状況です。



<質問3> ご存知の高等専修学校（複数回答あり：回答者数 164名）

- ・ アイム湘南理容美容専門学校 2022年度 96 / 2020年度 74
- ・ 岩谷学園高等専修学校 2022年度 98 / 2020年度 63
- ・ 専門学校国際新堀芸術学院 2022年度 46 / 2020年度 32
- ・ 野田鎌田学園横浜高等専修学校 2022年度 93 / 2020年度 38
- ・ ヨコスカ調理製菓専門学校 2022年度 95 / 2020年度 77

※上記5校が比較的認知度を大きく伸ばしているのではないかと考えています。ただ全体的に認知数が下がったところはなく、すべて数値は上がっています。もともと高いところはその数値をキープしており、数字が一桁のところも必ず伸びているといった状況です。

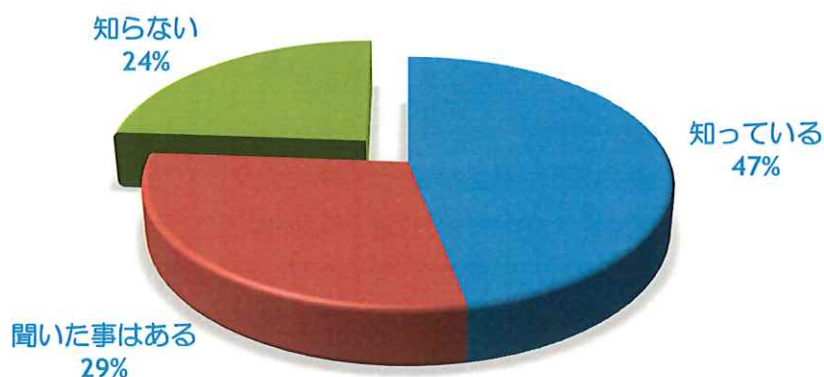


<質問 4> 支援の必要な生徒の受け入れについて

- ・知っている 2022年度 77 / 2021年度 73 / 2020年度 62
- ・聞いた事はある 2022年度 48 / 2021年度 41 / 2020年度 48
- ・知らない 2022年度 39 / 2021年度 51 / 2020年度 43

※「知らない」は人数を減らし、「知っている」が62から77と増やしています。

《質問 4》 支援の必要な生徒の受け入れについて

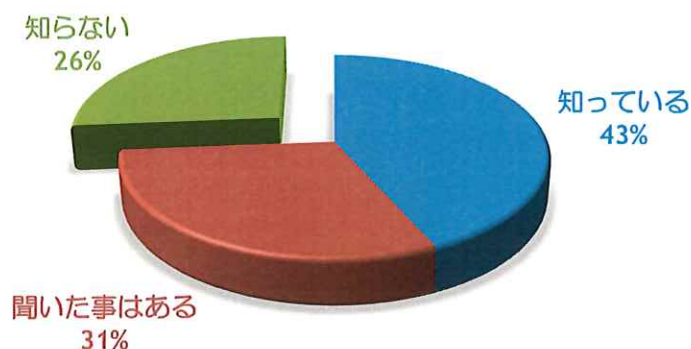


<質問 5> 私立高校と同額の支援制度があることについて

- ・知っている 2022年度 71 / 2021年度 72 / 2020年度 53
- ・聞いた事はある 2022年度 50 / 2021年度 34 / 2020年度 46
- ・知らない 2022年度 43 / 2021年度 59 / 2020年度 54

※いつもご指摘をいただいているところではありますが、「知っている」が比較的伸ばしているがまだまだ認知が足りないかなと思います。私立高校との同額の支援制度については、高等専修学校も支援を受けられるので「知らない」を無くしていかないといけないと思っております。

《質問 5》 私立高校と同額支援制度について



<質問 6> 仕事のまなび場 Jr をご存知ですか

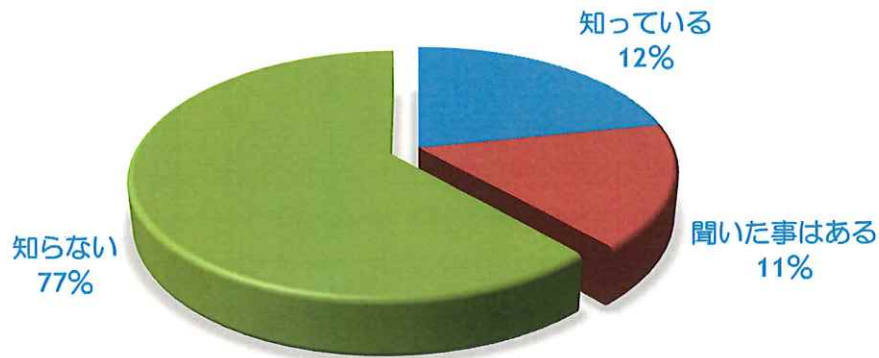
- ・知っている 2022年度 36 / 2020年度 18
- ・知らない 2022年度 101 / 2020年度 118

※「知っている」と答えた方が倍に増えています。「知らない」と答えた方がまだまだ多い状況ではあり

ます。現在、協会ではかなり多く受け入れています、高等専修学校側の受け入れの人数等で限度があります。目いっぱい稼働しているのですが、今後「知っている」が増えていき、申し込みも増えてくるといったことも考えていかなければならないと思っております。

「仕事のまなび場 Jr 」は、職業教育を理解していただくという意味では非常に良い機会であると思っておりますので、今後も引き続き周知をしていきたいと思っております。

《質問 6》仕事の学び場 Jr をご存知ですか

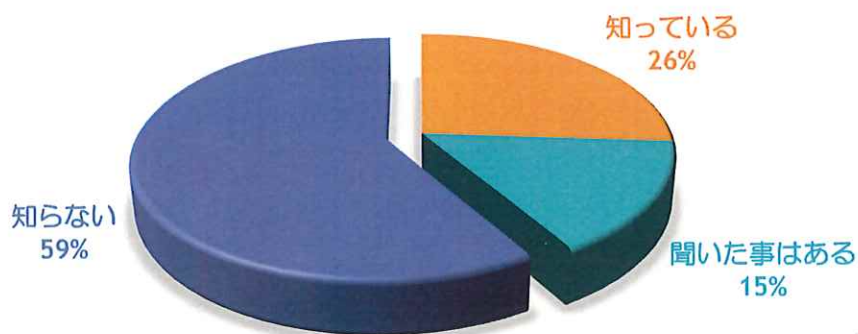


＜質問 7＞高等専修学校展についてご存知ですか

- ・知っている 2022 年度 43 / 2021 年度 31
- ・聞いた事はある 2022 年度 25 / 2021 年度 36
- ・知らない 2022 年度 96 / 2021 年度 99

※「知っている」が大きく増えています。

《質問 7》高等専修学校展についてご存知ですか

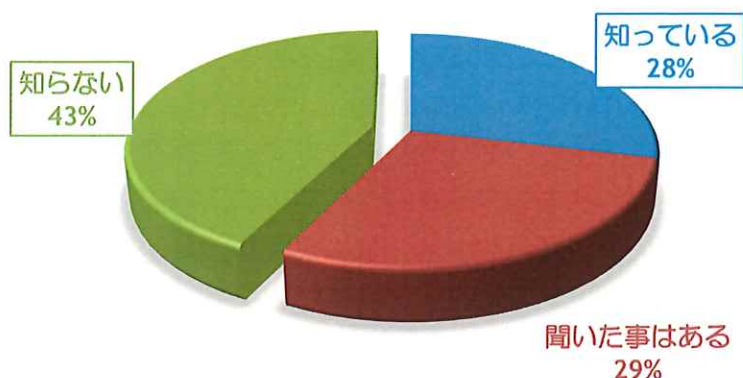


＜質問 8＞高等専修学校進路説明会をご存知ですか

- ・知っている 2022 年度 47 / 2022 年度 42
- ・聞いた事はある 2022 年度 47 / 2022 年度 43
- ・知らない 2022 年度 70 / 2022 年度 81

※「知らない」といった人数は減っているのですが、まだまだ進路説明会の周知が必要と感じております。

《質問 8》高等専修学校進学説明会をご存知ですか

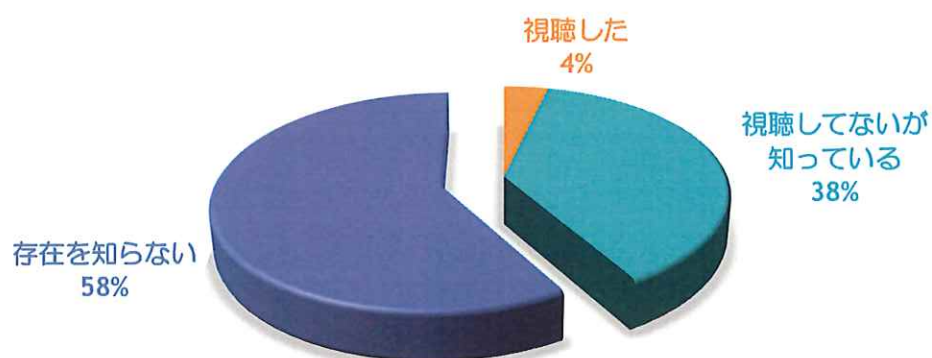


＜質問 9＞高等専修学校のDVDをご存知ですか

・視聴した	2022年度 6	／	2021年度 4
・視聴していないが知っている	2022年度 62	／	2021年度 45
・存在を知らない	2022年度 96	／	2021年度 117

※DVDに代わるアプリを導入しました。後ほど鈴木委員長よりご説明させていただきます。

《質問 9》高等専修学校のDVDをご存知ですか

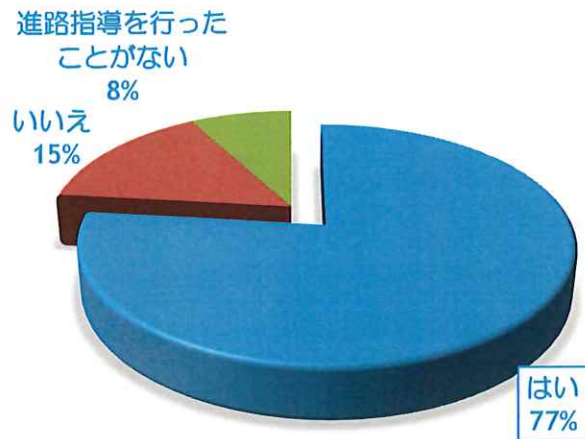


＜質問 10＞生徒・保護者に紹介したことがあるか

・はい	2022年度 126	／	2021年度 122	／	2020年度 123
・いいえ	2022年度 25	／	2021年度 30	／	2020年度 28
・進路指導を行ったことがない	2022年度 13	／	2021年度 13	／	2020年度 2

※こちらは大きな数字の変化はありません。

《質問 10》生徒・保護者に紹介したことはあるか

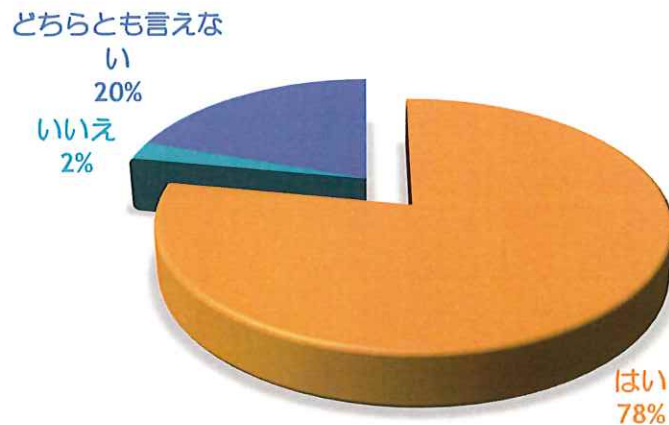


＜質問 11＞高等専修学校の情報を知りたいか

- ・はい 2022年度 128 / 2021年度 119 / 2020年度 117
- ・いいえ 2022年度 4 / 2021年度 2 / 2020年度 5
- ・どちらとも言えない 2022年度 32 / 2021年度 44 / 2020年度 31

※大きな数字の変化はありません。高等専修学校の情報を知りたいというパイを増やしていかなければいけないと感じています。

《質問 11》高等専修学校の情報を知りたいか

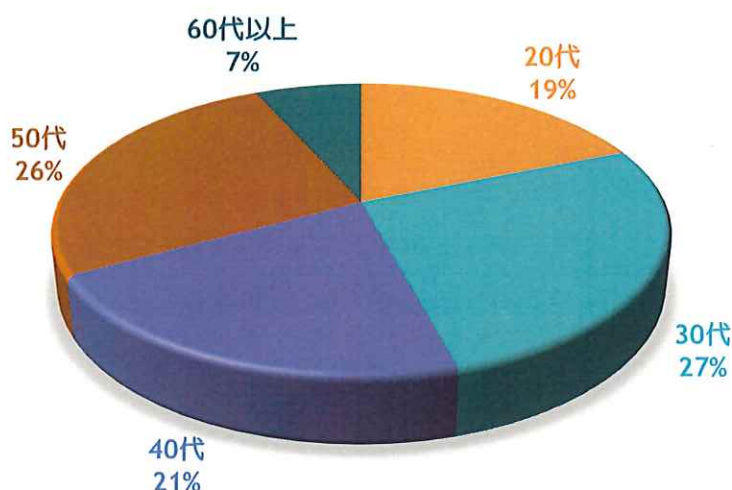


＜質問 12＞回答者の年代について

- ・20代 2022年度 31
- ・30代 2022年度 44
- ・40代 2022年度 35
- ・50代 2022年度 43
- ・60台以上 2022年度 11

※数字の大きな変化はございません。

《質問 12》回答者の年代について



先ほどお話がありましたとおり、1月19日に開成町にありますセンターへ訪問し説明をさせていただきましたが、確実に認知は伸びてきていると感じております。支援制度や説明会など細かなイベントなど、高等専修学校の特長についてさらに周知をして知っていただくことが大事であると感じております。また、後ほど意見交換でみなさまのご意見等伺えればと思います。

2-4. 高等専修学校の取り組み 事例に基づいた紹介

昨年は、岩谷学園高等専修学校、ヨコスカ調理製菓専門学校、生蘭高等専修学校に説明をいただきました。今年度は、野田鎌田学園横浜高等専修学校、横浜芸術高等専修学校、横浜デザイン学院にお願いをしたいと思います。

①野田鎌田学園横浜高等専修学校 校長 新留先生

よろしくお願いいたします。高等専修学校の実践的な職業教育ということで、本校は調理と情報がありますが、本日は調理についてご紹介できればと思います。

まず、高等専修学校は8分野ございます。工業、農業、医療、衛生、教育・福祉、商業、服飾・家政、文化・教養と8分野に分かれております。

高等専修学校とは、社会に出てすぐに役立つ実践的な職業教育を行い、様々な分野のスペシャリストを養成。そして高等学校と並ぶ正規の後期中等教育機関として、高等学校の枠に収まらない多様な教育を実践する学校です。

実際に調理の分野の学校にはどのような生徒が入学をしてくるのかということですが、(調理に特化したものではないが)まずは、<その分野に興味がある生徒>という生徒が希望を出してきます。「調理師やパティシエ等になりたい」また、「料理を作るのが得意」なぜ?と聞くと、「相手が喜ぶから」と答えます。そのほか「食べるのが好き」「普通の勉強が苦手」不登校や発達障害などがあります。ただこれは表向きの理由ではないかと思っています。本音の部分では、普通の高校生活を送りたい、行事や部活動に参加したい。また、自己肯定感がすごく要求していると感じます。褒められたい、認められたい、役に立ちたいということをお求めていると感じます。そして、高等専修学校では不登校の生徒も多く入ってきています。本校では中学校時代3割が不登校だったという生徒が入学をしていますが、この生徒たちの9割以上が学校に通えるようになります。大きな要因としては、周りが同じような生徒で安心感がある、そして実技が多くなることで自分の個性を活かすことができるようになる、3つ目がとても重要になりますが、保護者が褒めてくれるようになることで子どもたちが生き生きとしている、そんな場を目にします。私共の学校では、多くの体験

を通して自信をつけさせて自立するということをテーマに実施しています。

調理科について、厚生労働省の管轄でどの学校も全国同じですが、1~3年生までに960時間の勉強を行います。(調理実習や専門教科)1時間でも足りないと言理師免許がもらえない仕組みになっています。また在学中に<技術者査>を受けると6年後の学科試験の免除が受けられます。調理師養成施設教員免許資格を取得することができます。さらに<食育インストラクター>や<食品衛生責任者>の資格を在学中に取得できます。

3年生になると校外学習で実際に10日間企業にお世話になる体験授業も実施しています。そのほか、体育や部活動、委員会活動などもあり、個性ある授業を展開しています。地域に根差した活動として清掃活動や書道を取り入れるなどしています。

進路先については、調理科では就職が7~8割、進学が2~3割となります。就職ではホテルや旅館、集団調理と言われる学校給食や老人ホームなどがあります。進学については、管理栄養士や栄養士を目指したいということで、大学や専門学校への進学者もいます。

最後に、「高等専修学校に進学してくる生徒の多くは、自分にあまり自信がありません。そして様々なこと(学力・人間関係・家庭・経済的不安等)で悩んでいます。多くの高等専修学校では、このような生徒たちに様々な経験(実技教育など)を通して、自信をつけさせ自立を促そうと考えています。進路も多様化している現在、職業を意識した子の教育は、とても重要だと考えています。」

②横浜芸術高等専修学校 事務局次長 庄司先生

本校はもともと通信制の高等学校の運営からスタートした学園です。教育理念を<表情もまた学力である>と掲げ、学校運営を行っています。本校の入学生は、3~4割が不登校を経験し、勉強など何らかの躓きを感じている生徒が例年の傾向です。横浜で6コースにて運営しています。生徒が様々なことに興味を持ち入学し、学校の取り組みの中で生徒自身が自分の意志で学んでいけるよう心掛けて教育活動をしています。また3年間の学びで、自ら向き合った課題で少しでも解決につながれることを願っています。

進路については、2021年4月開校のため卒業生の実績はまだなく今年度初めて卒業生を出すという状況です。

分野については、<文化・教養>に5コース、<衛生(美容)>に1コースです。こちらは美容師国家資格取得が可能となります。どちらの学科も、通信制高校との併修で高卒資格を取得し卒業できるようカリキュラムを組んでいます。

時間割については、一日の半分は実習の時間となり興味のあるものを中心に学ぶことのできるカリキュラムになっています。美容師コースについては、すべての授業を取らないと美容師国家資格は受験資格が得られません。

職業訓練の取り組みについて、美容師コースでは、

<City&Guild 国際美容技術認定>イギリスで設立された技能認定を行う組織との提携

学校内で認定が受けられる仕組みになっているため安心して受けられる環境の配慮をしています。実能力があることはもちろん、実際に施術をしている様子が評価対象となります。接客を含めたサロンワークの技能認定になるので、より実践に近いかたちで評価を受けることができます。

<キャリアデザイン>通常授業に取り入れて実施

現役の美容師スタッフの方に来てもらい授業指導を行い、実技やディスカッションなどをしながら美容師としての考え方を深めることを行っています。

<インターンシップ>実際に現場で経験をする

1・2年生を対象に1週間程度実施し、実際に働くことを身につけていきます。

総合芸術学科(文化・教養)では、特定の資格取得は難しい分野ではあるが、なるべく実践の機会を設けていこうという考えのもと指導を行っています。今年度の取り組みとして、近隣の警察署と連携して、「特

殊詐欺撲滅ポスター」の作成や商業施設キャンペーンビジュアル制作の実施を行います。毎年違ったかたちで取り組んでいます。

<声優コース>学内でのオーディションに取り組む、ラジオ収録、イベント司会

<ファッション・ビューティーコース>撮影実習、ファッションショーの取り組み

学んでいることを実際に実践できる場（表現できる場）を提供できるよう積極的に取り組んでいます。

実際に実践できる場があることで、得られる評価が自信につながるという法人で実習を組んでいます。

③横浜デザイン学院 課長 宅間先生

現代社会において、職業教育を高等専修学校で行うということは？

本校は、デザイン、ファッション、マンガの3専攻に分かれています。分野は<文化・教養><服飾・家政>の2つになりますが、世界観でいうと、デザイン、ファッション、マンガが1つの世界観になるのではないかと考えています。

3年間の流れとしては、1年次は専門科目（デザイン・ファッション・マンガ）の基礎を学び、2年・3年でさらにしっかり学んでいきます。

進路先として、本校にも専門課程がありますが、専門課程へ進む生徒が7割程度、美術芸術系大学への進学が2割、一般大学は稀にあります。就職はほとんどないという状況です。

「3年間でしっかり進路について考えていこう」そして「目標を持ち続けよう」を大切に運営しています。時間割については、

一般教養が半数程度、専門分野が半数程度となっています。3年になると実習授業がかなり増えてくる仕組みになっています。

職業教育の実践について、

<技術力を身につける>職業=技術

基礎から学び、社会で活躍しているプロから学び、技術を身につけます。生徒たちもこの部分はスムーズに受け入れられます。

<発信力を身につける>人に見せる、人に評価してもらう

制作することだけで満足するのではなく、作品を人に向けて発信する力を身につけることが重要です。

<社会の中で実践する>社会でどう活かされていくか、社会の中で作っていく

授業課題を企業から受け、社会で必要とされるものを製作し社会に貢献する力を身につけることが大切。企業課題への取り組みについて、

仮想課題は説得力がないところがあるので、様々な企業様に来ていただき、そうではないということを実際に言っていただくことも大切です。商品開発や商品デザインを提案し実際にそれが商品になるまでを行い職業観を体験してもらいます。

発信力への取り組みについて、ものを作るときに「これを作りたい」というプレゼンテーションの時間を大切にし、行っています。また、ファッションショーでは発信力も重要になり、音響や照明のプロの方々と打ち合わせやコミュニケーションなどが必要になり、それらを行うことが職業のあり方であると思います。

技術力について、デジタルの世界になりつつあるがアナログの世界を大切にしたいと考えています。（図画工作が実は大切）

発信する感動について、喜びを与える（褒められる）ということが大切です。多くのコンテストや発表の場を与えて発信する力や評価される喜びが学習の励みになるよう取り組んでいます。

目標を意識した進路について、卒業生が様々な社会で活躍をしています。キャリアを考えるうえで、活躍する卒業生に高校に来てもらい、高校時代から今に至るまでの過程を話してもらいことが大切だと考えています。

職業教育における進路について、クリエイティブ系分野において、高等学校卒業後の進路は、時代とともに

に変化をしており非常に難しい状況です。その中で高等専修学校における職業教育のあり方として「就職」というかたちだけでなく、「将来設計」というかたちに移行してきています。3年間を通して、技術力や表現力を身につけるだけでなく、「進学」「自分自身の未来」をしっかりと考える力を身につけることを大切にしています。

2-5. 意見交換

前回は、高等専修学校の取り組みについて、発達障害について事例発表をしていただきましたが、本日は職業教育について行っていただきました。神奈川県の高専学校では様々な生徒の受け入れを行っています。特に発達障害のお子様の場合は、社会に出るための社会訓練の場として、また職業教育の中では高等専修学校を出てすぐに役立つ「生きる力」を教育の柱としている学校もあります。神奈川県の中には現在11校の高等専修学校がありますが、高校卒業の資格を取りながら、「生きる力」を学ばせる、また社会に適應する人格形成を行っています。この辺りが通信制とは少し違う、「face to face」で教育をするからこそ得られるもの、教えられるものがあると感じます。また子どもたちが自分の足で歩きだす力を身につけることができると思います。それが神奈川県にある高等専修学校のかたちではないかと思えます。

また、アンケートの結果からも、なかなか中学校の先生方に知っていただくことが難しく、認知度の部分ではまだ低いかと感じています。3年前に比べると少しずつ認知度は高まってきてはいますが、まだまだ力不足であると感じています。

神奈川県の高専学校では、2年前から「仕事のまなび場 Jr」を行っています。主に中学2年生を主体で実施しています。毎年行うことで、高等専修学校を知ってもらうきっかけづくりになるのではないかと感じます。今年も多くの中学校で開催していただき、先生方にも理解していただければと思っております。

【鈴木委員】

■意見交換

<鈴木委員>

来年度より、神奈川県の高専学校では新たにアプリの導入を考えています。

<適職診断アプリ>性格診断（エニアグラム）

スマートフォンで設問10程度に答え、自分の性格（9つある性格診断の中）からどんな仕事があるかを30秒程度、ゲーム感覚で診断するアプリを導入します。また、今後実施する、「仕事のまなび場 Jr」でも活用していければと思います。

現在、中学校では生徒の方々がタブレットを持っているとうかがっております。学校でアプリを使うのは難しいのではないかと感じますが、自宅にQRコードを持ち帰り、保護者の方と一緒に実施することで会話のきっかけづくりや進路を考えるきっかけになればと思います。また、高等専修学校で得られる技術や知識などもこのアプリを活用できればと考えています。

DVDについても、作ってもなかなか見てもらえないという現状があります。アプリを導入するなど、少しずつ探りながら認知度向上に向けて努力していきたいと思っています。

<甲方委員>

「就労移行支援」について、こういった活動をして、どのような子どもたちが支援を受けているのか？パソコンの技能を職業に活かすというよりも（パソコンはむしろ苦手）、体を動かして就職を目指しています。座ってする作業よりも出来るだけ立ち仕事を行うようにしています。例えば、不動産屋さんの開店前の清掃活動を行います。最初は職員と一緒にいき、慣れれば一人で行ってもらうようになります。働くということ、声を出すこと、清掃のやり直しなど、色々な経験の中で少しずつ自信をつけていく良い部分も苦手な部分も含めて先へ進めていきます。

<辻野委員>

本校も不登校の生徒などが多くいる中で、事例発表にもあったように、「自信をつける」といったことは行っています。3校の発表がとても参考になりました。どうやって自信をつけていくのか？というところについて、先ほども話にありました「仮想課題には説得力がない」というところで、現実の世界で自分自身に変化がある課題に一生懸命取り組むという中で高等専修学校は常に現場主義、現実の世界で課題に向き合うことで自信をつけることができるというのが、個人的に自分自身納得ができた内容だったと思います。その中で大きい変化を求めるのではなく、少しずつ自信をつけさせることが大切ではないかと感じます。子どもたちも実際に変わるといことは大きな自信につながると感じました。

<田口委員>

本校では、音楽分野は「お客様」あつての仕事になりますので、実習の場を特に大事にして運営しています。授業の中でも常に髪型や歩き方、しゃべり方、服装などお客様の印象に残るように、金髪OK、ピアスOKといった指導をしています。その結果お客様に見ていただき、拍手をいただくことで自信をつけています。

子どもたちの承認要求がとても大きいと感じます。興味のある分野で承認され、自信へとつながり自分の力として羽ばたけるような教育ができるというのが高等専修学校の強みではないかと思っています。

<窪田委員>

現在、神奈川県の高校生の求人倍率が非常に悪い状況です。

企業が求めることは、生徒本人について何ができるのか？ということになります。本校は就職が4割、進学が6割です。昔は8割が就職でしたが逆転しています。保護者が進学を希望しています。保護者が高等学校と同じことを高等専修学校に求めていると感じます。

実際にそのすみ分け、どこで勝負をするべきなのか・・・中学校の先生方がどこにそのラインを置いているのかその部分をお伺いできればと思います。

<奥脇委員>

基本的には、本人と保護者の方にしっかり学校の特色を調べていただいています。子どもたちの個性を伸ばす多様な教育機関があることをきちんと提示して、その中で高等学校を希望する方や資格を身につけさせたいという家庭もあります。また通学時間なども考慮したうえで選択していただくような指導を行っています。高等専修学校の先生方がいろいろ工夫をしていただき、子どもたちの力を育てていくような環境づくりを行っていることを各中学校の校長先生に発信していきたいと感じています。アンケート結果からももっと認知度を高めていかないといけないと感じました。昔は進路の範囲ももっと狭かったように思います。今は様々なかたちで高校卒業の資格が取れたり、通信制があつたりと選択肢が非常に多くなっていることもあり、保護者や本人がとても迷うようになっています。たくさんある選択肢をまだ発信しきれていないと感じます。現在は口コミのようなものが根強いのではないかと感じます。

<北井委員>

昔は行きたい高校があつても「この点数じゃ無理だよ」ということもあつたが、今はそれが無く、「ここへ行きたい」となれば、「頑張って勉強しなさい」となります。そうすると「行き場のない…どうしようか？」といった考えに保護者や生徒はなるので、そうなったときの選択肢となるのが現状です。公立高校に行きたいが無理・・・自分の成績では無理・・・ではどうしよう・・・私の個人的な考えでは、こんなに高等専修学校は楽しそうなのに何で自分はいかなかったのかと感じるが、ではなぜ選ばないのかと考えたとき、もし、この学校を選んだ時、途中で飽きてしまったらどうするのか？という不安感が払しょくされる何かがあれば

と思います。子どもたちが、やりたいという気持ちをもって入学したが、挫折をしたり、不安になったりしたときに大丈夫だよ！という気持ちを感じられるものが入口にあれば良いのではないかと思います。

<鈴木委員>

神奈川県的高等専修学校の退学率は、高校の退学率よりとても少ないです。退学者の理由として、学校が嫌になって退学するのではなく、学費が払えなくてやめるケースかと思います。もちろん修学支援もありますが、学費を理由に通信制の学校に転学する生徒もおります。ただ、入学時にはしっかり面倒を見て指導をしていくということをしっかり伝えて入っていただいていますのでその部分は安心していただければと思います。支援金についてはこの先、増えていくことはないでしょうか？

<岩谷委員>

子どもたちに対する学びの格差をなくしていこうということはしております。

<永山委員>

本校でも、興味をもって入学してきましたが、他の分野に興味を持った生徒もいます。技能連携を行っているので、大学進学もできますし、資格を取っておくと安心感もあるので、国家資格があるのが強みになります。専門知識を学べるということが高等専修学校の強みになります。活躍できる場が広がります。

<鈴木委員（聖）>

本校は工業ですが、本人というよりも保護者の方には国家資格があるという安心感につながっています。本校はカリキュラムを100%こなすだけで国家資格が取れるということが魅力なのでその部分をPRしていますがなかなかうまくいかないのが現状です。

本日来られておりませんが、厚木総合高等専修学校は調理の勉強は1年間だけですが、2・3年では厚木中央高校で一般的な勉強を他の高校生と一緒に学んでいきますので、最初は調理に興味があり入学したが、工業やファッションの生徒たちと話すうちに他のことを学びたいというようになり、調理以外の分野に進む生徒さんもいます。例えばデザインの学校であれば、デザインを突き詰めるだけではなく、一般的な学びもあるなかで就職の幅を広げていくというのはどうでしょうか？

<田口委員>

音楽の中でも違う分野に進む生徒たちは多くいます。最初は歌を歌うのが好きなので表の仕事をしますが、裏方の仕事に興味を持ち音響や照明、楽器業界に進むなど進路変更をする生徒も多いです。音楽以外に興味を持つ生徒も中にはいます。その場合は、通信制の連携校の在籍は残しつつ高校卒業の資格を取り、その先へ進むということもあります。

<大田委員>

「技術力を身につける」ということはどこも同じでとても大切なことかと思います。ただ身につけるだけではなく、企業と連携をして社会の中で実践としてやってみて成果が見えるというのは一つ大きなことかと思います。これがやはり高等専修学校の特長だかと思います。それに特化するならば、子どもたちをしっかりと把握して指導して高等専修学校に送っていただければと思います。子どもたちにはやはり結果が見えるということが大事になるかと思います。そして結果に対し褒めてあげて「人間力」を3年間である一定の年齢に育てていくかということが大切であり、そういった意味では高等専修学校の存在というのはとても大きいし、もっと活用してほしいと感じます。

アンケートの<質問1>高等専修学校を知っていますか？136名<質問11>高等専修学校の情報を知り